

日本紀標註

卷之二十五

和書門類			
四三七八	二四三	二六	
號	函	冊	架

內閣文庫			
三七八	二六	二六	
號	冊	冊	架

(五十二冊)

內閣文庫	
番號	和 43718
冊數	26(25)
函號	137 99



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

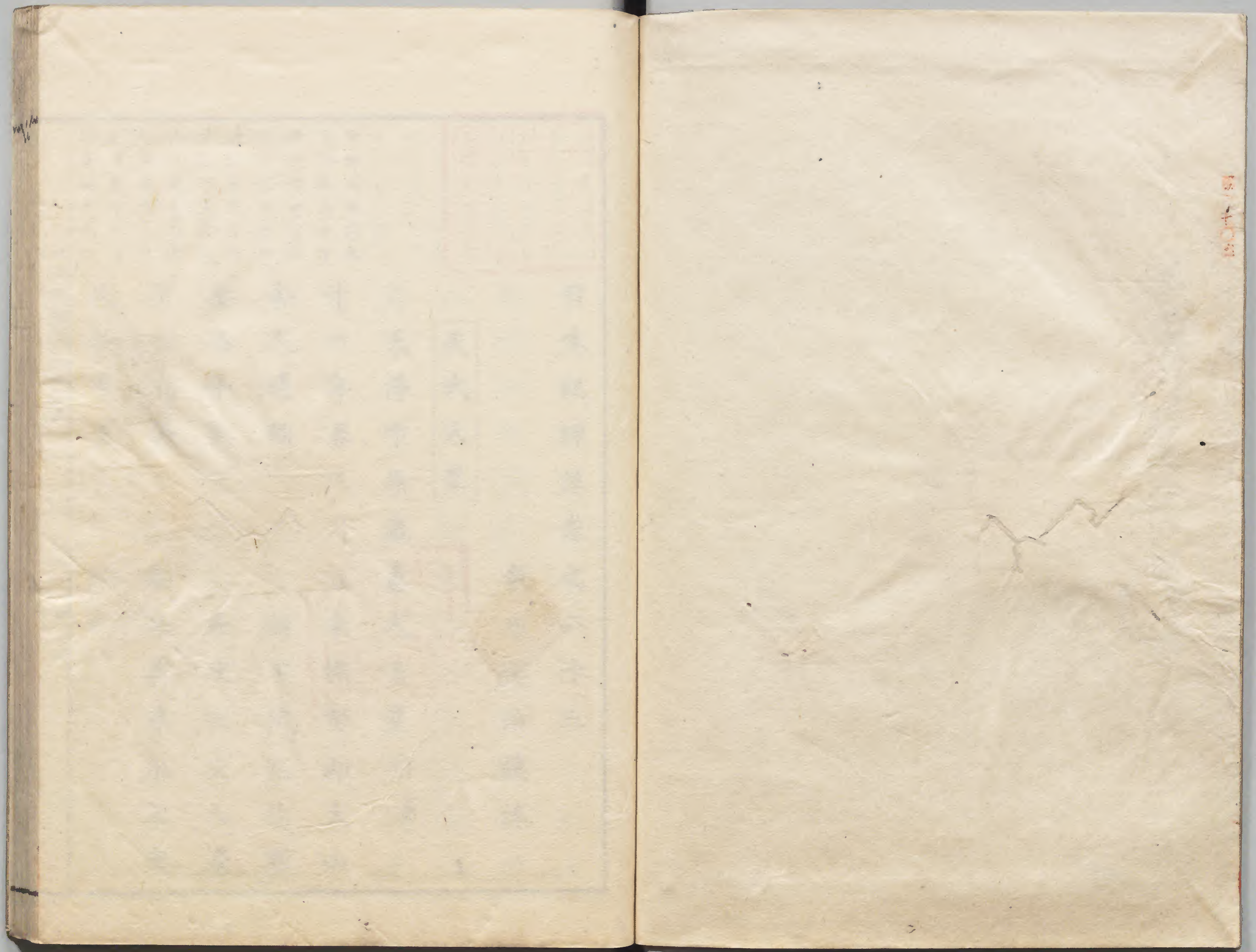
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak











日本紀標注卷之二十五

敷田年治謹注

天武天皇

天淳中原瀛真人天皇 下卷

癸卯九月○大山下小上中下

等の字つるべし○乙巳十一

日○壬子十八日○氷上夫人

上小見延た？

○癸丑十九日

○辛酉廿七日

○赤穂も大和人於赤穂

○日本紀標注卷之二十五

○一







ふや○禪ニ前ヤテ止ニ之ニ更ニ返ニ於ニ公ニ

と、知波夜と注せれど、此禪も禪の異脈なり、字書に見えず、然れど我古字ふも去  
むく見返とせむ、姓本小従ふ前裳てふも詳ふらざ○褶推古紀小注せり○  
脛裳と下ふも、男夫著脛裳、婦女垂髪于背猶如故とあり、續紀二、直冠以上者、  
皆白縛口袴、勤冠以下者、白脛裳、和名抄小本朝式云、脛巾、俗云、波々岐とあり、中  
古より脛巾と、武官の服とありて、衣服令武官朝服の本注ふ、會集等、日、加錦、襦  
襦赤、脛巾、帶弓箭云々○膳夫、景行紀小見返たて○手繼、神代紀小注せり、上小  
等之の二字あり、行と、む前る○肩  
中、崇神紀小領巾をよみ、彼処小注しつ

土師連真敷、集解ニ上紀真敷ニ作馬手トと云るニも失考あり、ト紀と元六年六月、條小出たるを云るふれど、馬手も續紀一

是月土師連真敷卒、以壬申年功、贈大錦上位、夏四月癸亥朔辛未、祭廣瀨龍田神、癸未、筑紫大宰丹比、真人嶋等、貢大鐘、甲申、越蝦夷

小山科、山陵を修造小預見、同三小正五位上小叙、同四小従四位下を加、同五和銅四年二月、卒とあり、を見り、し、原本土師下、二十六年行四百五十七

伊高岐那等、請停人七千戸爲一郡、乃聽之、乙酉、詔曰、自今以後、男女悉結髮、十二月三十日以前、結訖之、唯結髮之日、亦待勅旨、婦女乘馬、如男夫、其起于是日也

字も、十四年九月、條の、錯簡あり、今刪去○辛未九日○癸未廿一日○大鐘、和名抄小、洪鑑、俗云、於保加祿、榮花物語、後悔大將小、御たり、みしてぬりをりき、大かぬをつきて申の、ありたり○甲申廿二日○停人、神功紀不見、和名抄小、囚人を、止良倍比止と注し、清寧紀小、然、よめ、字書小、停、取也、と、軍、所獲也、と、も注せり○乙酉廿三日○結髮、余解小、按、始制、庶人、首飾と云るを、懇切、古、を思、る、説、あ、古、史、傳、七、小、縣、居、翁、の、説、を、記、し、て、云、凡、て、古、女、の、髪、の、狀、を、幼、き、ほども目さしとも云、て、額、の、髪、の、目、を、さ、す、む、り、生、下、と、り、それ、過、て、肩、邊、へ、下る、ほ、ども、末、を、切、て、放、ら、て、り、る、を、故、髪、と、も、童、故、と、も、り、あ、る、兒、と、も、云、り、八、歳



子とあてても、切りぐ長ららしむ、其、十四五歳とあてて、男も体すでも、無  
てのみらとむ、猶童故とも、云々、其、万葉十三、歳の八年を斬髪  
の、我かたを過ぎ、九、不、名、負、處、女、り、八年、冠、の、片、生、の、時、ゆ、小、放、髪、多、久、ま、て  
云々、あ、ど、を、見、て、辨、べ、し、さ、て、男、し、て、後、髪、舉、し、つ、は、こ、と、も、二、卷、三、方、沙  
弥、丸、園、臣、生、羽、が、女、を、妻、と、し、て、幾、時、も、經、む、て、病、臥、し、て、よ、め、る、歌、々、多、氣、婆、奴  
礼、多、り、祢、む、長、き、妹、が、髪、去、の、頃、見、ぬ、み、搔、入、つ、ら、む、ら、と、よ、め、る、み、生、羽、が、女、の  
答、歌、み、人、皆、も、今、も、長、し、と、多、け、と、言、へ、ど、君、が、見、し、髪、亂、れ、た、と、も、あ、ど、ら、る  
を、以、て、辨、べ、し、と、言、は、た、る、が、如、し、然、み、今、こ、こ、み、解、し、ら、る、を、書、紀、み、結、髪、と  
ら、る、解、と、結、し、大、違、る、み、似、た、か、故、猶、考、ふ、る、み、先、允、て、女、も、年、長、て、髪、何、く、る、を  
上、代、よ、り、の、儀、あ、る、み、天、武、紀、十、一、年、の、詔、み、自、今、以、後、男、女、悉、結、髪、と、ら、る、を、思  
ふ、み、上、代、み、結、と、云、し、も、本、を、一、み、ら、つ、め、舉、て、結、て、其、末、後、へ、垂、れ、る、み、を、  
彼、詔、み、結、と、ら、る、も、頭、上、み、結、縮、て、髻、と、成、を、云、あ、る、べ、し、さ、て、十、三、年、み、も、女、年  
四、十、以、上、髪、之、結、不、結、任、意、也、と、ら、て、又、十、五、年、の、詔、み、婦、女、垂、髪、子、背、猶、如、故  
と、ら、る、も、又、り、の、上、代、よ、り、の、風、の、如、く、せ、よ、と、あ、り、故、こ、の、十、五、年、の、詔、以、後、の、  
万、葉、の、歌、み、も、髪、何、く、る、こ、と、を、多、く、詠、る、を、の、本、を、結、ふ、み、と、み、て、末、も、垂、る  
あ、ど、で、彼、詔、み、違、ふ、こ、と、あ、し、云、々、年、治、云、此、説、ら、る、み、み、や、ら、あ、れ、ど、云、た、ら、ず、  
女、も、本、を、一、み、ら、つ、め、末、も、後、へ、垂、た、と、云、も、素、よ、り、然、る、べ、き、を、男、も、女、も、同、  
状、あ、り、し、と、見、む、も、如、何、故、思、ふ、み、男、も、髪、を、左、右、み、分、頂、み、て、取、違、へ、結、て、末、を

左右み垂りむを、此詔み依りて、取違たる処み、縮むとみ、婦女、垂髪子  
背とも何れど、男亦然ことのみられむあり、因云今、京とまてて後、男も髪を一  
み捲立たししを、乱世を経て後、中を削り、遂前、み掛て、剃り、落し、是を半額と云  
しゆ、久しき風俗ありしを、明治五六年の間、み至り、彼洋人の状、み習ひ、真似ぶ  
る世とあり、上王公より下庶人、み至るまで、天下悉く許、み切り、偶古風を守り  
つるを、頑固とみ、ざり、り、を、し、る、み、至、り、り、實、み、世、の、一、大、變、あり、と、云、べ、し、是  
も、今、を、昔、し、と、恐、ぶ、ら、む、千、載、の、後、の、人、の、為、み、記、し、置、ぬ、○、婦、女、乘、馬、集  
解、み、古、婦、人、乘、馬、不、跨、鞍、至、于、此、始、有、制、跨、乘、與、男、子、同、こ、の、説、去、ら、る  
甲辰十二日○  
戊申十六日○  
己未廿七日○  
丁卯六日○  
紗冠、續紀ニ、み、  
四十八階の、服  
制を、定、み、詔  
み、皆、漆、冠、と、ら  
る、猶、裁、束、抄、み、  
烏、帽、子、み、  
御所、己未、倭、漢、直等男女、悉、參、赴、  
之、悦、賜、姓、而、拜、朝、六月、壬戌、朔、高  
曰、連、戊申、遣、高麗、大使、佐伯、連、廣  
足、小使、小墾田、臣、麻呂、奉、使、旨、於、  
○日本紀標注卷之二十五  
○四



ことを記せば、衣服令不无位、皆皇纒頭巾と、たて、髪不男女著漆紗冠と、る、今年三月の詔不、自今已、後位冠及云々、莫著、と停、治ひて、仮、紗冠を許、治ひし不や、然、不婦女不冠を著せしむるも、是よて古、て見と、紗を原本抄不作、見り、執紀不、擬、て改む、紗と和名抄不、訓を淺し、俗云、射と、りど、宇鏡集平他字類抄等不、ウ、ス、モ、ノ、て注せば、○癸酉十二日、○殖粟王も、紹運録不、厩戸、皇子の男と、りて甲午三日、○大隅も、日向国の一郡不、て、此時未、一國不、立、ざ

麗王、遣下部助、有卦婁毛切、大古、ク、ツ、モ、フ昂加貢方物、則新羅遣大那末金、ク、ツ、モ、フ釋起、送高麗、使人於筑紫、丁卯、男、ク、ツ、モ、フ女始結髮、仍著漆紗冠、癸酉、五位、ク、ツ、モ、フ殖粟王卒、ク、ツ、モ、フ秋七月壬辰朔甲午、隼人多來貢方物、是日大隅隼人、與阿多隼人、

○隼人、神代紀不注、せ、續紀二不、討薩摩隼人、士、授勳、○阿多、も、薩摩國郡名○相撲、隼人式、不、大衣者、擇譜第内、署左右各、一人、注不、大隅為左、阿多為右、初相撲の七月不、行、れ、し、も、既、皇極天皇元年、紀、不、注、し、つ、○庚子九日、○壬寅十一日、○戊申十七日、○

相撲於朝廷、大隅隼人勝之、庚子、ス、マ、ヒ、ト、ル小錦中膳、臣摩漏、病、遣草壁、皇子、ス、マ、ヒ、ト、ル尊、高市、皇子、而訊病、壬寅、祭廣瀨、ス、マ、ヒ、ト、ル龍田、神、戊申、地震、己酉、膳、臣摩漏、ス、マ、ヒ、ト、ル卒、天皇驚之、大哀、壬子、摩漏、臣、以、ス、マ、ヒ、ト、ル壬申、年、之功、贈大紫位及禄、更、皇、ス、マ、ヒ、ト、ル后賜物、亦准官、賜、丙辰、多禰、人、掖、ス、マ、ヒ、ト、ル玖、人、阿麻彌、人、賜禄、各有差、戊午、ス、マ、ヒ、ト、ル饗隼人等、於飛鳥寺、西、發種種樂、



巳酉十八日○  
壬子廿一日○  
丙辰廿五日○  
阿麻弥人、薩  
摩國、其地  
を後、大嶋と  
云、李、齊明  
紀海見嶋  
小注しつ○戊  
午廿一日  
甲子三日○大  
星、流星あり、  
ヨバヒボシと  
よむべし○丙  
寅五日○法令  
十年、紀、朕今  
更欲下、律令、改  
法式、と、行、此  
小至、て、造らし  
め、給へ、續紀

仍、賜、禄、各有、差、道、俗、悉、見、之、是、日  
信、濃、國、吉、備、國、並、言、霜、降、亦、大、風、  
五、穀、不、登

八月、壬、戌、朔、令、親、王、以下、及、諸、臣、  
各、俾、申、法、式、應、用、之、事、甲、子、饗、高

麗、客、於、筑、紫、是、夕、昏、時、大、星、自、東  
度、西、丙、寅、造、法、令、殿、内、有、大、虹、壬

申、有、物、形、如、灌、頂、幡、而、火、色、浮、空

二、不、遣、三、品、刑  
部、親、王、正、三、位

流、北、每、國、皆、見、或、曰、入、越、海、是、日

藤、原、朝、臣、不、比  
等、云、々、撰、律、令

白、氣、越、於、東、山、其、大、四、圍

於是始成、大略、以、淨、御、原、朝、廷、為、准、正、○大、虹、舊、讀、ヌ、ジ、と、点、し、万、葉、十、四、小、夜、左、  
可、能、為、提、余、多、都、努、自、能、と、行、マ、然、ど、和、名、抄、小、虹、一、名、蛭、和、名、爾、之、と、行、マ、て、雅、  
俗、と、も、ニ、ジ、と、云、ま、む、何、と、も、行、る、べ、し、○壬、申、十、一、日、○白、氣、舊、讀、氣、を、シ、  
ル、シ、と、よ、め、れ、ど、キ、と、よ、む、べ、し、是、と、音、訓、暗、合、ホ、テ、夫、木、集、一、小、う、め、の、花、雪、小、  
見、ゆ、と、ど、春、の、氣、を、け、ふ、マ、を、こ、め、て、寒、か、ら、ふ、く、ホ、又、さ、く、花、の、光、マ、ト、も、ウ、ル、  
と、る、の、氣、を、け、ふ、マ、を、こ、め、て、暗、ず、ぞ、行、マ、レ、ル、万、葉、二、小、塩、氣、能、味、香、乎、礼、流、國、  
ふ、と、例、行、マ、○

癸、酉、十、二、日、○

癸、酉、大、地、動、戊、寅、亦、地、震、是、日、平

戊、寅、十、七、日、○

且、有、虹、當、于、天、中、央、以、向、日、甲、戌

甲、戌、干、支、誤、と

筑、紫、大、宰、言、有、三、足、雀、癸、未、詔、禮

字、を、顛、倒、と、し、  
て、戊、寅、上、小、記

儀、言、語、之、狀、且、詔、曰、凡、諸、應、考、選



せり、然も千支  
の頃、符とど、  
者能檢其族姓、及景迹一方後考之。  
戊寅亦地震と  
行る、亦字衍と  
、む、姑、原本  
従ふ、按小戊寅  
者不在考選之色  
と甲戌とを後前小改、ふむ妨、ふし○三足雀、南史夏侯詳傳、有三足雀來、集唐  
書五行志、得雉五足、三足出背上○戊寅十七日○平旦有虹、異ふるを記せ  
る○癸未廿二日○禮儀、字鏡集、類聚名義抄、色葉字類抄等、禮をウヤ、よめ  
又類聚名義抄、小禮代、四體十字文、小禮別、尊卑、ふど、行る、業をひ幸をひの  
例、て、禮をひあり○言語之狀も、古語、小言、靈能、佐吉、播布、國と傳、たる如く、皇  
語も、万國、小勝、とて、麗し、るるを、儒佛、洋の雜、まて、つらぬ、狀、小云、類、せるも、口  
を、し、士業、ふらむ、や、今、より、十二、百年、前、小も、ら、言語、之、狀、を、詔、お、た、ま、へ、  
今、より、千、歳、の、末、思、ひ、や、る、べ、し○考選、も、位、定、み、て、上、小、云、る、○族、姓、下、小、八、色  
之、姓、を、定、め、如、く、姓、小、尊、卑、行、る、氏、小、貴、賤、行、る、て、賤、も、内、位、小、叙、ぐ、き、ふ、ど  
を、以、て、此、詔、行、め、る、○景迹、古、今、小、い、ふ、め、小、時、ま、つ、は、ふ、そ、日、も、へ、ぬ、る、心、を  
せ、を、む、人、小、見、む、つ、源、氏、若、紫、小、け、し、る、ら、ず、か、た、ち、心、を、せ、ふ、ど、こ、ん、  
云、々、抄、小、心、操、と、注、し、戸、令、小、政、績、能、不、及、景迹、善、惡、皆、録、入、考、狀、考、課、令、小、定、官

人、景迹功過、應附考、義解、小、景迹者景狀也、猶、狀迹、也○行  
能、考、課、令、小、錄、一、年、功、過、行、能、義、解、小、善、惡、為、行、才、藝、為、能、  
已丑廿八日○  
日高皇女の、日  
高も尊稱、小、て、  
即草壁皇子の  
御女あり、後、小  
元正天皇と、謚、  
す○新家も、乳  
母の姓、小、把、た  
るふるべし、皇女も、天武、天皇の、御孫、ふとむ、女王と書、べき例、ふれど、後、小、御位  
小、即、冷、へ、る、也、如、此、稱、せ、る、○庚寅、廿九日○大宮、大寺と、大安寺とも、百濟、大  
寺とも、云、る、安、皇、極、紀、小、注、せ、る、原本、宮  
を、官、小、作、り、集、解、小、改、た、る、不、從、ふ  
壬辰二日○跪  
禮、万葉、四、十、  
六、自、物、膝、折、儀、  
云、々、是、跪、禮、の  
者能檢其族姓、及景迹一方後考之。  
若雖景迹行能灼然其族姓不定  
者不在考選之色  
大宮、大寺  
皆赦之、庚寅、百四十餘人、出家於  
大辟罪以下、男女并一百九十人、  
已丑、勅、為、日高皇女、更名、新、之、病、  
家皇女  
九月辛卯朔壬辰、勅、自、今、以後、跪  
禮、匍匐、禮、並、止、之、更、用、難、波、朝、廷、

○日本紀標注卷之二十五



狀不て、古代よ  
 然○匍匐  
 之立禮、庚子、日中數百、鶴當大宮、  
 禮万葉二、不、鶴  
 成伊波比、廻、同  
 以高翔於空、四赴而皆散  
 三、不、四、時、自、物、伊波比、拜、ふ、ど、即、匍匐、礼、あり、是、ら、を、止、た、ふ、も、支、那、風、不、似、せ  
 於、む、た、め、あ、り、續、紀、一、不、禁、正、月、往、來、行、拜、賀、之、禮、如、有、違、犯、者、依、淨、御、原、朝、廷、  
 制、決、罰、之、と、ら、る、如、く、へ、よ、く、支、那、風、行、た、れ、て、日、本、後、紀、八、不、延、曆、十、八、年、正  
 月、朔、皇、帝、御、大、極、殿、受、拜、文、武、官、九、品、以、上、蕃、客、等、各、階、位、減、四、拜、為、再、拜、不、拍、手、  
 以、有、渤海、國、使、也、と、ら、る、を、見、よ、か、つ、く、遺、た、る、拍、手、の、古、礼、を、さ、へ、ら、ら、ぬ、も  
 の、ふ、か、も、は、し、と、り、求、て、夷、狄、の、風、俗、を、移、し、ま、な、ひ、し、世、態、を、搜、り、今、世、洋、夷、の  
 風、を、好、め、る、趣、ふ、ど、併、察、さ、る、し、猶、推、古、十、二、年、紀、不、注、せ、る、が、如、し、○難、波、朝、廷  
 孝、德、天、皇、の、御、世、を、云、○立、禮、も、我、上、代、不、聞、が、り、し、支、那、風、あ、り、○庚、子、十、日  
 ○鶴、も、鶴、不、お、お、じ、字、鏡、集、不、オ、ホ、ト、リ、と、注、せ、る、大、鳥、不  
 て、和、名、抄、不、鶴、を、よ、め、る、○大、宮、と、字、の、如、く、内、裏、を、云、  
 戊、辰、八、日、○大  
 舖、も、清、寧、紀、不  
 注、せ、る、○乙、巳  
 十六、日、○紀、彈、  
 冬、十、月、辛、酉、朔、戊、辰、大、舖、十、一、月  
 庚、寅、朔、乙、巳、詔、曰、親、王、諸、王、及、諸

職員令ふ、彈正  
 大忠一人、掌下巡  
 察内外、糾彈非  
 違○禁省、大  
 内とよみて禁  
 中を云○起當  
 處兵捕亡令不  
 九追捕罪人所  
 發人兵皆隨事  
 斟酌、使多少堪  
 濟、其當界、有軍  
 團、即與相知、隨  
 即討撲○杖色、  
 名例律、杖罪  
 五、杖六十贖銅  
 六、斤、杖七十贖  
 銅七、斤、杖八十  
 贖銅八、斤、杖九  
 罪  
 罪、則不伏、辨以争、訴者、累加其本  
 下、節級決之、亦犯狀、灼然、欺言、無  
 處、兵而捕之、當杖色、乃杖一百、以  
 捕、則捉、若對、捍以不見、捕者、起當  
 而、糾彈、其有犯、重者、應請、則請、當  
 於、過失、發處、即隨、見隨、聞、無匿、藏  
 法、者、或禁省、之中、或朝廷、之中、其  
 臣、至于庶民、悉可、聽之、凡糾彈、犯  
 法、者、或禁省、之中、或朝廷、之中、其



十贖銅九斤、杖一百贖銅十斤、金王掌中抄、始從六十、竟於一百、以十為一等、○  
節級、賦役令、節級推科、仍附考殿、○欺言無罪、獄令、事狀疑似、猶不首實者、然  
後持掠、每訊相去二十日、若訊未畢、移他司、仍須拷鞠云々、名例律、自首不實、及  
不盡之罪者、以不實不盡之罪罪之、○不伏辨、綏靖紀、自服をウベナヒヌト  
め、是も諾ふふあり、日本靈  
異記、小諾をウベナリト云々

壬戌三日、○官  
司、治部省、  
○斟酌、戸令  
小臨時、斟酌、不  
得、復損百姓、後  
漢書、鄭興傳、  
自杜林、桓譚、莫  
不斟酌焉、注、  
謂取、其意指也

十二月庚申朔壬戌、詔曰、諸氏人  
等、各定可氏、上者而申送、亦其眷  
族多在者、則分各定氏、上並申送  
於官司、然後斟酌其狀、而處分之  
因承官判、唯因少故而、非己族者、  
輒莫附

庚寅二日、○三  
足雀も、前年小  
見、近た、○乙  
未七日、○大極  
殿、皇極紀、小  
注せ、○丙午  
十八日、○明神  
云々、孝徳紀、小  
見、近た、○小  
壑田舞、紀、小  
兼、方、案、之、小、壑  
田宮、朝、所、製、之  
樂、歌、と、り、又、然  
も、何、ら、む、り、此  
樂、名、此、を、お、き  
て、物、小、見、す、集  
解、小、所、謂、倭、舞  
是、と、云、る、も、非

十二年春正月、己丑朔庚寅、百寮  
拜朝廷、筑紫、太宰、丹比、真人、嶋等、  
貢三足雀、乙未、親王以下及群卿、  
喚于大極殿前、而宴之、仍以三足  
雀示于群臣、丙午、詔曰、明神御大  
八州、日本根子、天皇勅命者、諸國  
司國、造郡司、及百姓等、諸可聽矣、  
朕初登鴻祚以來、天瑞非一二、多  
至之、傳聞其天瑞者、行政之理、協



あり、倭舞を何の世に製てけむ中昔の書よそ去むく見ゆつれど、早く衰て世に知る人ふありしをや、○高麗舞、職員令雅樂寮、高麗樂師四人、樂生二十人、類聚国史百七、大同四年三月、定雅樂寮雜樂師、高麗樂師四人、横笛、篳篥、莫目、憐等、師也、雅樂式分配左右相撲司処、左唐樂右、高麗樂、○百濟樂、職員令雅樂寮、百濟樂師四人、樂生二十人、類聚国史百七、横笛、篳篥、莫目

于天、道則應之、是今當于朕世、每  
 年重至、一則以懼、一則以嘉、是以  
 親王諸王及群卿百寮、并天下、黎  
 民共相歡也、乃小建以上、給祿各  
 有差、因以大辟罪以下、皆赦之、亦  
 百姓課役並免焉、是日、奏小墾田  
 舞、及高麗百濟新羅三國樂於庭  
 中

目等、師也、○新羅樂、職員令雅樂寮、新羅樂師四人、樂生二十人、類聚国史百七、新羅樂師二人、琴、憐等、師也、空穗、物語、樓上、媛、小松引つる、毎ふ、忍ひあへ、まろまろしらの、あろぎすひせむ、續紀十二、天、皇御北松林、覽、騎射、入唐廻使及唐人、秦、唐、国、新羅樂、持槍云々、已丑二日、○僧正僧都、推古紀、注せ、○如法注せ、○如法、僧尼令、見、返、た、○丙午十九日、○壬申十五日、○銅錢の錢文、世に傳、もらず、○銀錢、頭宗二年、紀、見、返、た、續紀、四和銅二年、八

二月己未朔、大津皇子始聽朝政、  
 三月戊子朔己丑、任僧正、僧都、律  
 師、因以勅曰、統領僧尼、如法云云、  
 丙午、遣多禰、使人等返之、夏四月  
 戊午朔壬申、詔曰、自今以後必用  
 銅錢、莫用銀錢、乙亥、詔曰、用銀、莫  
 止、戊寅、祭廣瀨龍田神、



日、發銀錢一行、銅錢、是也、和銅錢、文、和銅開珍、見、同、五、和銅三  
 年九月、不至、禁、天下、銀錢、同、八、養老五年正月、令、天下、百姓、以、銀錢、一、當、銅錢二  
 十五、云々、○乙亥十  
 八日、○戊寅廿一日  
 己未三日、○大  
 伴連望多、上、小  
 見、正、た、望、え  
 マグ、と、濁、韻、小  
 よ、ひ、べ、し、例、も  
 播磨風土記、小  
 望理、里、乃、委、  
 音韻、修、蒙、小、記  
 し、つ、○發、鼓、吹、  
 續紀、十、小、吉、備  
 内親王者、無、罪、且、准、例、送、葬、唯、停、鼓、吹、多、小、鼓、吹、を、用、ひ、し、も、喪、葬、令、  
 小、見、正、委、古、葬、儀、小、記、し、つ、○壬戌、六、日、○高坂王、上、小、見、正、た、  
 己丑、四、日、○鏡  
 姬王、上、小、注  
 六月、丁巳、朔、己未、大伴、連、望、多、薨、  
 天皇、大、驚、之、則、遣、泊、瀨、王、而、吊、之、  
 仍、舉、壬申、年、勲、績、及、先、祖、等、每、時、  
 有、功、以、顯、寵、賞、乃、贈、大、紫、位、發、鼓、  
 吹、葬、之、壬戌、三、位、高、坂、王、薨、  
 秋、七、月、丙戌、朔、己丑、天、皇、幸、鏡、姬、

セ、ア、諸、陵、式、小、  
 押、坂、墓、鏡、女、王、  
 在、大、和、国、城、上、  
 郡、押、坂、陵、域、内、  
 東、南、無、守、戸、○  
 庚、寅、五、日、○安、  
 居、齋、名、義、集、  
 小、南、山、云、形、心、  
 攝、靜、曰、安、要、期、  
 住、此、曰、居、五、雜、  
 組、小、四、月、十、五、  
 日、天、下、僧、尼、就、  
 禪、刹、塔、柱、謂、之、結、夏、又、謂、之、結、制、蓋、方、長、養、之、辰、出、外、恐、傷、草、木、虫、蟻、故、九、十、日、安、  
 居、至、七、月、十、五、日、始、盡、散、去、謂、之、解、夏、又、謂、之、解、制、是、を、ア、ン、ゴ、と、呼、ぶ、ら、へ、  
 小、見、正、た、る、限、也、類、聚、国、史、百、七、十、八、小、記、せ、  
 小、見、正、た、る、限、也、類、聚、国、史、百、七、十、八、小、記、せ、  
 續、紀、八、小、見、正、た、る、元、亨、  
 叙、書、九、小、見、正、た、る、  
 王、之、家、訊、病、庚寅、鏡、姬、王、薨、是、夏、  
 始、請、僧、尼、安、居、于、宮、中、因、簡、淨、行、  
 者、三、十、人、出、家、庚子、雫、之、癸卯、天、  
 皇、巡、行、于、京、師、乙巳、祭、廣、瀨、龍、田、  
 神、是、月、始、至、八、月、早、之、百、濟、僧、道、  
 藏、雫、之、得、雨、



庚申五日 ○大  
 伴連吹負、原本  
 吹負、上、男、字  
 行、子、行、也、  
 心、削、る、○丙戌  
 二日 ○丁未廿  
 三日 ○倭直、神  
 武紀、不見、也、  
 ？ ○粟隈首、舒  
 明紀、不見、也、  
 ？、原本、隈、を、隅、に、誤、り、也、○水取造、姓氏録、水取、連、速、日、命、六、世、孫、伊、香、我、色、牟、  
 命、之、後、也、三、代、實、録、九、小、水、取、連、繼、主、賜、姓、宿、益、又、水、取、連、繼、男、等、賜、姓、朝、臣、神、饒、  
 速、日、命、之、後、也、○矢田部造、崇、神、紀、不見、也、○藤原部造、九、恭、紀、不見、也、為、衣、通、郎、  
 姫、定、藤、原、部、續、紀、廿、小、改、藤、原、部、姓、為、久、須、波、良、部、同、廿、六、小、授、從、六、位、下、久、須、原、  
 部、連、洋、日、外、從、五、位、下、姓、氏、録、小、葛、原、部、豐、城、入、彦、命、三、世、孫、大、御、諸、別、命、之、後、也、  
 原本、藤、を、菽、に、誤、り、り、歟、紀、小、據、て、改、む、○刑部造、用、明、紀、小、押、坂、部、史、毛、屎、と、云、  
 人、見、中、同、姓、り、姓、氏、録、小、刑、部、首、火、明、命、十、七、世、孫、屋、主、宿、益、之、後、也、按、小、刑、部、も、  
 和、名、抄、諸、国、郷、名、小、於、佐、加、倍、の、訓、注、り、る、小、據、て、よ、み、つ、○福草部造、記、の、上、卷、

八月丙辰朔庚申、大赦天下、大伴、  
 連、吹、負、卒、以、壬、申、年、之、功、贈、大、錦、  
 中、位、九月乙酉朔丙戌、大風、丁未、  
 倭、直、粟、隈、首、水、取、造、矢、田、部、造、藤、  
 原、部、造、刑、部、造、福、草、部、造

小、天津、日子、根、命、者、三、枝、部、造、等、之、祖、也、と、り、  
 ？、此、姓、の、起、り、由、は、頭、宗、紀、不、見、也、九、？  
 凡、川、内、直、神、代、  
 紀、不、見、也、九、？  
 オ、ホ、シ、カ、フ、チ  
 と、い、む、べ、し、○  
 川、内、漢、直、推、古  
 紀、不、河、内、漢、直  
 贊、と、云、人、見、ゆ、  
 王、仁、の、末、子、也、  
 ○物、部、首、垂、仁  
 紀、不、見、也、九、？  
 ○山、背、直、神、代、紀、不、見、也、九、？ ○葛、城、直、用、明、紀、小、葛、城、直、磐、村、と、云、人、見、ゆ、姓、氏、  
 録、小、葛、木、直、高、麗、命、五、世、孫、劔、根、命、之、後、也、○殿、服、部、造、姓、氏、録、小、服、部、連、天、御、中、  
 主、命、十、一、世、孫、天、御、神、命、之、後、也、と、り、り、殿、字、考、ふ、し、○門、部、直、孝、德、紀、不、見、也、九、  
 ？ ○錦、織、造、も、仁、德、紀、不、錦、織、首、見、ゆ、○綿、造、上、小、見、也、九、？ ○鳥、取、造、垂、仁、紀、不、  
 見、也、九、？ ○來、目、舍、人、造、按、小、久、米、小、皇、別、と、神、別、と、り、り、來、目、舍、人、も、孰、ふ、ら、む、  
 氏、人、と、類、張、国、史、八、十、七、刑、法、部、小、久、米、舍、人、望、足、と、云、人、見、也、同、九、十、九、職、官、部、

凡、川、内、直、川、内、直、川、内、漢、直、物、部、首、山、背、  
 直、葛、城、直、殿、服、部、造、門、部、直、錦、織、  
 造、綿、造、鳥、取、造、來、目、舍、人、造、檜、隈、  
 舍、人、造、大、狗、造、秦、造、川、瀬、舍、人、造、  
 倭、馬、飼、造



小、久米、舍人、虎取てふ人も見ゆ、原本來を未だ誤りて、叙紀に於て改む。○檜隈  
 舍人造、姓氏録に、檜前舍人連、火明命十四世孫、波利那乃連公之後也、氏人七續  
 紀廿六、小、檜前、舍人、直建麻呂、續後紀九、小、檜前舍人、直由加麻呂、ふど云、人見也  
 ○大狛造、上、小、大狛造百枝見少。○秦造、雄略紀に見ゆ。○川瀬舍人造、雄略  
 紀に、近江国栗本郡言、白鶴、鷲、居于谷上、濱、因置川瀬、舍人、と有り、是より出た  
 る姓と見ゆ。○氏人も史に淺き。○倭馬飼造、上、小、倭馬飼部連と見ゆ。○  
 川内馬飼造、上、小、川内、馬飼造、黄文造、薦集造、勾管  
 繼體紀に見ゆ。○黄文造、  
 天智紀に見ゆ。○薦集造、  
 姓氏録に、天津  
 彦根命之後也、欽明紀に、薦集部首登弭てふ人見ゆ。○原本薦を蒂不作と、  
 今叙紀に於て、○勾管作造、此姓考、ふし、職員令宮内省に、管陶司有りて、管戸も  
 有り、是に縁有り、姓、勾、と大和国高市郡の地名あり。○石上部造、續紀十七  
 小、石上部君諸弟と云、人見也、同十九、小、石上部君男嶋等、四十七人言、已親父登  
 與以去大寶元年、賜上毛野坂本君、姓、而、子孫等籍帳、猶注石上部、君、於理不安、望  
 請、隨父、姓、欲改正之、許焉。○財日奉造の、財と美て加たる、姓、録に、日本連、高

穴穂部造、白髮部造、  
 作造、石上部造、財日奉造、塗部造、  
 川内馬飼造、黄文造、薦集造、勾管

魂命之後也、つら、猶敏達紀に、日祀部見ゆ、併考、べし。○塗部造、上、小、見ゆ。○  
 ○穴穂部造、雄略紀に、詔置穴穂部と有り、是を安康天皇の大御名を、穴穂と  
 申し、此天皇の御子坐さ、し、ゆ、御名、代、此部、曲を置ゆ、後也、と云、意、小、や、續紀三十六  
 部、首、穴穂、天皇之後、者、と有り、彼天皇の由り、後也、と云、意、小、や、續紀三十六  
 小、孔王部、山麻呂と云、人見ゆ。○白髮部造、清寧紀に、遣大伴室屋、大連、於諸國、置  
 白髮部、舍人、白髮部、膳夫、白髮部、靱負、糞、垂遺跡、令觀於後、と有り、如く、清寧天皇  
 を、白髮武国押稚、天皇と申し、御子坐さ、し、ゆ、御名を後世に傳むため、此部  
 曲を置ゆ、へ、と、續紀卅八、小、臣子之禮、必、避君、諱、比、若、先帝、御名、及、朕、之、諱、公私觸  
 犯、猶、不、忍、聞、自、今、以後、宜、並、改、避、於是、改、姓、白髮部、為、真髮部、山部、為、山、と詔、先  
 帝、光仁天皇、小、大御名を、白壁と申し、今上も桓武天皇、小、大御名を、山部  
 と申し、あり、孝德紀に、白髮部連、日本靈異記に、白髮部、猶、麻呂、おど、見ゆ。○  
 惣て、白髮部の、民、小、て、別、小、姓、祖、有り、小、ら、り、ず、然、も、繼體紀に、每、州、安置、三種、白  
 髮部、以、留、後世之名、と、有り、如く、諸國に在る部曲の民、多、ゆ  
 小、姓、氏、録、に、真髮部と改、たる、小、皇、別、神、別、諸、蕃、等、雜、と、る、を、や  
 忍海造、天智紀  
 小、見、ゆ、た、り、○  
 羽束造、姓氏録  
 小、羽、束、首、天、足

忍海造、羽束造、文首、小泊瀬造、百  
 濟造、語造、凡三十八氏、賜姓曰連



彦国押人命、男、彦姥津命之後也。と見也、和名抄山城国乙訓郡、郷名羽束、波豆賀之、式不同郡羽束師坐、高御産日、神社と何と云、此地よと出たる姓ふ？○文首、應神紀不見也、書首ふおまじ○小泊瀬造、仁徳紀不見也、原本瀬、宇を渡せ、欽紀不扱、て補ふ○百濟造、姓氏録、百濟、公、百濟、国、酒、王、之後也、仁徳紀、百濟、王、之、孫、酒、君、見、少、續、紀、二十、太、宰、陰、陽、師、從、六、位、下、余、益、人、造、法、華、寺、判、官、從、六、位、下、余、東、人、等、四、人、賜、百、濟、朝、臣、同、廿、七、刑、部、卿、從、三、位、百、濟、王、敬、福、薨、其、先、者、出、自、百、濟、國、義、慈、王、云、々、藤、原、朝、廷、賜、号、曰、百、濟、王、三、代、實、録、七、飛、馬、戸、造、有、雄、等、賜、姓、百、濟、宿、祿、其、先、百、濟、國、人、比、有、王、之、後、也、同、六、百、濟、宿、祿、有、世、賜、姓、百、濟、朝、臣、云、々、初、此、不、連、姓、を、賜、え、其、子、孫、大、方、を、百、濟、王、て、不、姓、を、傳、へ、連、之、姓、氏、録、ふ、へ、見、也、唯、續、後、紀、九、百、濟、連、清、繼、と、云、人、一、人、の、み、史、子、見、也、た、？○語、造、姓、氏、録、天、語、連、神、寬、命、七、世、孫、天、日、鷲、命、之、後、也、儀、式、大、嘗、祭、儀、今、諸、國、量、程、進、物、部、門、部、語、部、等、大、嘗、祭、式、子、伴、宿、祿、一、人、佐、伯、宿、祿、一、人、各、引、語、部、十、五、人、入、自、東、西、掖、門、就、位、奏、詔、詞、云、々、語、造、の、原、由、是、之、出、雲、風、土、記、安、來、郷、條、不、語、臣、等、之、父、と、云、子、見、也、た、？

紀不見也、た？  
○伯耆造、因造  
本紀、伯耆國  
造、志賀高穴穗  
朝御世、兄多毛  
比、命、兒、大、八、木  
足、尼、定、賜、國、造  
原本、伯、耆、泊、不

己未五日○三宅吉士、垂仁紀  
不見也、た？○草壁吉士、皇極  
冬十月、乙卯朔、己未、三宅吉士、草壁吉士、伯耆造、船史、壹伎史、婆羅

羅馬飼造、菟野馬飼造、吉野首紀、酒人直、采女造、阿直史、高市縣主、磯城縣主、鏡作造、并十四氏賜姓、曰連

作也、今、欽、紀、不、從、ふ、○船、史、姓、氏、録、不、船、連、菅、野、朝、臣、同、祖、太、阿、郎、王、三、世、孫、智、仁、君、之、後、也、○壹、伎、史、舒、明、紀、不、見、也、○婆、羅、々、馬、飼、造、和、名、抄、河、内、國、郡、名、讚、良、佐、良、々、と、何、？、此、地、小、由、何、？、姓、ふ、り、上、小、川、内、馬、飼、造、と、何、？、同、族、ふ、る、へ、し、日、本、靈、異、紀、不、河、内、國、更、荒、郡、馬、甘、里、有、富、家、云、々、此、地、名、今、隱、也、た、？○菟、野、馬、飼、造、欽、明、紀、不、河、内、國、更、荒、郡、馬、甘、里、有、富、家、云、々、此、地、名、今、隱、也、た、？○菟、吉、野、首、神、武、紀、不、見、也、た、？○紀、酒、人、直、記、の、中、卷、景、行、段、不、神、祿、王、者、木、國、之、酒、部、阿、比、古、宇、陀、酒、部、之、祖、○采、女、造、姓、氏、録、不、采、女、朝、臣、神、鏡、速、日、命、六、世、孫、大、水、口、宿、祿、之、後、也、○阿、直、史、應、神、紀、不、注、せ、？、續、紀、三、小、勘、解、由、主、典、阿、直、史、福、吉、散、位、同、姓、枝、公、等、三、人、賜、姓、清、根、宿、祿、枝、公、之、先、百、濟、國、人、也、○高、市、縣、主、上、不、見、也、た、？○磯、城、縣、主、神、武、紀、不、見、也、た、？○鏡、作、造、神、代、紀、不、見、也、た、？



丁卯十三日 ○  
合梯も大和国  
十市郡不在？  
○丁亥四日 ○  
詔諸国、原本詔  
を治ふ誤とて、  
姑、通證ふ改た  
るふ從ふ ○陣  
法、持統紀不遣  
陣法博士等、教  
習諸国、軍防令  
小凡衛士者中  
分、一日上、一日  
下、毎下日即令  
於當府、教習弓  
馬、用刀弄槍、及  
發弩、抛石、云々  
原本陣を陳小

丁卯、天皇狩于倉梯、十一月甲申  
朔丁亥、詔諸國習陣法、丙申、新羅  
遣沙冷金主山、大那末金長志進  
調、十二月甲寅朔丙寅、遣諸王、五  
位伊勢王、大錦下羽田、公八國、小  
錦下多、臣品治、小錦下中臣、連大  
嶋、并判官錄史、工匠者等、巡行天  
下、限分諸國之境、塙、然是年不堪  
限分

作より、今集解不改、たろ小從ふ ○丙申十三日 ○丙寅廿三日 ○諸王五位七、五  
位の諸王の中不て撰、たろふ？ ○伊勢王、持統紀不、淨大肆伊勢王とて、父祖  
詳ふらざ ○羽田公八國、上小矢國不作と？ ○判官、和名抄不、判官、萬豆利古止  
比止 ○錄史、和名抄不、神祇日史、省日錄皆佐官とて、 ○諸国境、成務紀不、隔  
山河而分、國縣、隨附、以定邑里云々、按  
不此御世再、國塚も、委定、たひしあ？  
庚午十七日 ○  
四五月も、春夏  
秋冬のち、じゆ  
の月を云、 ○不  
得集、大後、詞不  
集侍親王云々、  
儀式、大後儀の  
參集の訓注不、  
讀曰、末為、字古  
那波禮留とら  
？

庚午詔曰、諸文武官人、及畿内、有  
位人等、四、孟月、必朝參、若有死病、  
不得集者、當司具記、申送、法官、又  
詔曰、凡都城宮室、非一處、必造兩  
參、故先欲都難波、是以百寮者各  
往之請家地



庚子十七日○  
三野縣主也、河  
内國若江郡の  
地名を、委清  
寧紀に注せり  
内藏衣縫造也、  
齊明紀に、大藏  
衣縫造とあり  
み注せり○丙  
午廿八日○丙  
子廿四日○庚  
辰廿八日○廣  
瀨王、上み見色  
たり○大伴連  
安麻呂も、上み  
見色たり○録  
事、上み録史と  
あり

十三年春正月、甲申朔庚子、三野、  
縣主、内藏、衣縫、造二氏、賜姓曰連、  
丙午、天皇御于東庭、群卿侍之時、  
召能射人、及侏儒左右、舍人等、射  
之、二月癸丑朔丙子、饗金山、於  
筑紫、庚辰、遣淨廣肆廣瀨王、小錦  
中大伴、連安麻呂、及判官録事、陰  
陽師工匠等、於畿内、令視占應都  
之地、是日遣三野王、小錦下米女、

○視古、原本古  
を古に誤せり  
○信濃、古、国名  
の信濃なるこ  
と、次み進信濃  
國之圖と、あり  
をみるべし○將  
都是  
地歟と、後人の  
所為と見ゆと  
姑原本に從ふ  
庚寅八月○宇  
閉直、續紀十三  
子、於忌寸人主、  
同四子、於宿  
祿乙女、三代實  
録六子、右京人  
左弁官史生、從  
六位下、於公浦  
雄等三人、賜姓  
滋世、宿祿、み  
見ゆ、此於み宇  
閉も同姓、み丸

臣筑羅等、於信濃、令看地形、將都  
是地歟、  
三月癸未朔庚寅、吉野、人宇閉直  
弓、貢白海石榴、辛卯、天皇巡行、於  
京師、而定宮室之地、乙巳、金主山  
歸國、夏四月壬子朔丙辰、徒罪以  
下皆免之、甲子、祭廣瀨大忌、神龍  
田風神、辛未、小錦下高向、臣麻呂、



ど、姓祖詳あら  
ず○白海石榴

え、白玉椿ふる  
べし、惟馬樂高

砂小、平乃戸尔  
と、何小かぞへむ、限るふりれむ、按ふツバキ小、紀中海石榴をよみ、新撰字鏡

を、はじめ、椿をよめ、是りの字小論らむと、字を借物と稱む、相通とし用ひ、語

と、鉢ふとむ、動うすべうら、猶委、え国典字微、椿、字小注しつ○辛卯九日○乙

己廿三日○丙辰五日○徒罪、名例律小、徒一年贖銅廿斤、一年半、卅斤、二年、卅斤、

二年半、五十斤、三年、六十斤○甲子十三日○辛未九日○高向臣、寄明紀小見む

た、○都努臣、雄略紀小

見むた、る、角、臣小おまじ

爲大使、小山下都努、臣牛耳、爲小

使遣新羅

丙戌五日○閱  
舊讀ケニシナ  
ムと、点せれど、  
其を、檢の字音  
ふれむ、改つ○  
政要、舊讀ヌマ

閏四月壬午朔丙戌詔曰、來年九月  
必閱之、因以教百寮、之進止威  
儀、又詔曰、凡政要者、軍事也、是以

とよのど、其  
え、要害ふまそ、  
然、もよまめ、此  
え、モトとよむ  
べし○罰之、舊  
讀カウカヘシ  
ムと、よみて、勤  
の、旁注らむと、  
カムカフ、ゆと  
カウカヘ、ふど、  
云、る、語も、勘合  
の、字音、ふれむ、  
古言、おらら、ず  
○有欄、和名抄  
小、欄衫を、須曾  
豆介乃、古路毛  
と、注せ、て、按ふ  
此、御代の、服制、

文武官、諸人、務習用兵、及乘馬、則  
馬兵并當身裝束之物、務具備足、  
其有馬者、爲騎士、無馬者、爲步卒、  
並當試練、以勿鄣於聚會、若忤詔、  
旨、有不便馬兵、亦裝束有闕者、親  
王以下、逮于諸臣、並罰之、大山位  
以下者、可罰罰之、可杖杖之、其務  
習以能得業者、若雖死罪、則減二  
等、唯恃已才、以故犯者、不在赦例、



傳えらざれば、委も知がたけ、さど、衣端、小襦を著、いびも、袍の襦の状、小む、似り、よひりむ、續紀五、無位、朝服、自今以後、皆著、襦、黄、衣、襦、廣一尺二寸、以下、黄一本、廣、小、作、り、然、ど、衣、服、令、小、無、位、皆、皂、纒、頭、巾、黄、袍、と、ら、り、○結、紐、を、胸、の、開、さ、る、た、め、小、紐、着、て、結、し、多、り、相、聞、歌、小、數、見、を、た、る、紐、を、下、裳、小、着、た、る、小、て、即、下、紐、を、小、其、小、對、て、結、小、り、を、上、紐、と、云、り、曾、丹、集、小、夏、を、う、え、紐、を、と、て、風、小、む、り、ひ、云、々、○長、紐、を、垂、た、る、紐、を、云、る、こ、こ、大、嘗、會、式、小、見、を、た、り、新、勅、撰、集、小、山、藍、も、て、を、れ、る、衣、の、赤、紐、の、ぶ、ぐ、く、ぞ、我、も、神、小、つ、り、よ、る、○圭、冠、紵、紀、小、私、記、云、師、說、今、之、烏、帽子、也、圭、

又詔曰、男女並衣服者、有襦無襦、及結紐長紐任意服之、其會集之日、著襦衣而著長紐、唯男子者有圭冠冠而著括緒禪、女年四十以上、髮之結不結、及乘馬縱橫並任意也、別巫祝之類、不在結髮之例、

り、と、よ、め、る、も、榛、子、冠、の、略、を、て、其、實、形、を、云、る、小、や、通、證、小、葉、鞆、也、其、葉、有、鞆、紋、實、形、似、烏、帽子、と、云、り、と、ど、假、名、違、り、新、撰、字、鏡、及、和、名、抄、小、榛、波、之、波、美、と、注、せ、る、を、や、和、名、抄、小、烏、帽子、俗、訛、烏、為、焉、今、按、烏、焉、或、通、云、々、按、小、エ、バ、ウ、シ、と、云、る、も、焉、よ、り、起、り、る、小、や、西、宮、記、院、宮、條、小、御、隨、身、布、衣、焉、帽、帶、弓、箭、と、り、り、○括、緒、禪、續、紀、二、小、直、冠、以、上、者、皆、白、纒、口、袴、勤、冠、以、下、者、白、脛、裳、落、久、保、物、語、小、勘、當、お、も、し、と、あ、び、つ、る、が、苦、し、さ、ふ、く、を、脛、小、ら、げ、て、來、つ、る、小、た、ふ、れ、て、出、つ、き、た、り、云、々、是、も、指、貫、を、云、り、○髮、之、結、を、上、小、注、せ、り、

壬辰、三野王等進信濃國之圖、丁酉、設齋于宮中、因以赦有罪舍人等、乙巳、坐飛鳥寺、僧福揚以下、獄、庚戌、僧福揚自刺頸而死、五月辛亥、朔甲子、化來百濟僧尼、及俗人、



小、天皇遊行到  
於美和河之時  
河邊有洗衣童  
女其容姿甚麗  
天皇問其童女  
汝者誰子答曰  
已名謂引田部  
赤猪子云々御  
歌云比氣多能  
和加久流須婆  
良と、りる小依  
て、引田とよむ  
べし、式小同郡  
庚田神社有り  
續紀廿九小、大和  
神功紀不見也  
注せり○真人、

男女并二十三人、皆安置于武藏、  
國、戊寅、三輪、引田、君難波麻呂、爲  
大使、桑原、連人足、爲小使、遣高麗、  
六月辛巳朔甲申、零之、秋七月庚  
戌朔癸丑、幸于廣瀨、戊午、祭廣瀨  
龍田、神、壬申、彗星出于西北、長丈  
餘、  
冬十月己卯朔、詔曰、更改諸氏之

字の如し○姓  
氏録、序、真人、  
是皇別之上、氏  
也云々、續紀卅

族姓、作ハ色之姓、以混天下萬姓、  
一曰真人、二曰朝臣、三曰宿禰

七小、近江国言、除王姓從百姓、戸五烟口一百一人、戸主親村井上、大岡大魚動神  
等五人、並山村王之孫也、其祖父山村王、以去養老五年、編附此部、自余以來子孫  
蕃息、或七八世分爲數烟、依格六世以下、除承禰者、可科課役、望請承禰之戸、遷附  
京戸、自餘與姓科課、於是下、所司檢皇親、籍無山村王之名、仍從百姓之例、但不與  
真人之姓、又曰、穴人建麻呂之男女、神野、真人、淨主、真依、女等、十四人、第守智、真人  
豐公、改爲真人、從本姓、初建麻呂、冒稱仲江王、事發露而自經、其男女亦僞爲真人、  
至是改正之云々、拾芥抄、真人之姓四十五氏、載於史記、始皇紀、真人者  
入承不濡、入火不藝、淮南子本經訓、身無患百節莫苑、莫苑、莫苑、莫苑、莫苑、莫苑、是謂  
真人、ふど云々、皆仙人と云々、者、作とる説、おふじ、文字、おふじ、おふ  
じ、物、おふじ、朝臣、續紀卅二小、阿曾、美、爲朝臣、足尼、爲宿禰、諸如此類、不必  
從、古、云々、按、朝臣、我兄、臣の切、我兄、雄略紀、我兄、我兄、我兄、我兄、我兄、我兄、  
と、り、る、如、く、榛、之、枝、我、兄、あり、猶、記、の、中、卷、も、例、り、此、我、兄、を、万、葉、十、六、小、池、  
田、乃、阿、曾、と、も、平、羣、乃、阿、曾、と、も、よ、め、る、を、轉、た、る、未、だ、紀、紀、私、記、曰、師、説、  
相親之詞也、言、我身、隨、添、之、臣、也、と、云、是、を、朝、臣、と、書、り、る、と、入、朝、者、曰、朝、臣、と







達皇子難波王  
 之後也といひ  
 此人を續紀に  
 五、守山真人  
 綿麻呂、と云、人  
 の外見を、す○  
 路公之、守山公、おれおじ、是を方ホダとよめし、別道、君りて、姓祖を異ふ  
 せ、○高橋公、姓氏録に、高橋、臣、孝元天皇、皇子大彥命之後也○三国公也、繼體  
 紀に、腕子、皇子、是三国公之先也といひ○當麻公也、用明紀に、麻呂子、皇子、此當  
 麻公之先也といひ○茨城公、姓氏録に、茨木、造、豐城、入彥命之後也○丹比公也、  
 宣化紀に、上、殖、葉皇子、亦名、腕子、是丹比、公、傳、那、公、允、二、姓、之、先、也、といひ○猪名、  
 公、上、云、○坂田公、繼體紀に、中、皇子、是坂田公之先也といひ、此皇子を舊事  
 紀に、田中、皇子、不作、り○羽田公、姓氏録に、八多、真人、出自、謚、應神、皇子、稚、野、毛、  
 二、侯、王、也○息長公、上、おお、おじ○酒人公、繼體紀に、菟、皇子、是酒人公之先也  
 辛巳三月○定  
 諸国堺を、十二  
 年十二月、不見  
 色、たる、を、是、ふ

當麻公、茨城公、丹比公、猪名公、坂  
 田公、羽田公、息長公、酒人公、十三  
 氏賜姓、曰真人、

辛巳、遣伊勢王等、定諸國、堺、是日  
 縣、犬養連、手繼、爲大使、川原連、加

在、以、發、遣、せ  
 し、○川原連、  
 姓氏録に、陳思  
 王植之後也○  
 壬辰十四日○  
 人定、下學集に、  
 人定、亥時也○  
 六畜、皇極紀に、  
 見、云、た、○伊  
 豫、湯泉、舒明紀  
 に、注、せ、○神  
 造、是、嶋、敷、紀、に、  
 日本後紀曰、淳  
 和天皇、天長九  
 年、五月、庚戌、令  
 卜筮、云、々、伊豆  
 國、神、爲、崇、奏、伊  
 豆、國、言、上、三、島、

尺、爲、小使、遣、耽羅、壬辰、逮、于、人定、  
 大地震、舉、國、男女、叫、唱、不、知、東、西、  
 則、山、崩、河、涌、諸、國、郡、官、舍、及、百、姓、  
 倉、屋、寺、塔、神、社、破、壞、之、類、不、可、勝、  
 數、由、是、人、民、及、六、畜、多、死、傷、之、時、  
 伊、豫、湯、泉、没、而、不、出、土、左、國、田、苑、  
 五十餘萬頃、没、爲、海、古、老、曰、若、是、  
 地、動、未、曾、有、也、是、夕、有、鳴、聲、如、鼓、  
 聞、于、東、方、有、人、曰、伊、豆、嶋、西、北、二



神伊古奈比咩、  
神二前預名神、

此神聖深谷、  
高巖平造之地

二十所許、作神  
宮二院池三處、

面、自然增益三百餘丈、更爲一嶋、  
則如鼓音者、神造是嶋響也、甲午、  
諸王卿等賜祿

神異之事不可勝計、續日本後紀九下、伊豆國言、賀茂郡有造作嶋、本名上津嶋、此  
嶋坐阿波神、是三嶋大社、本后也、又坐物忌奈乃命、即前社御子神也、新作宮四院  
石室二間、屋二間、閣室十三臺、上津嶋本體、草木繁茂、東南北方、巖峻峭崿、人船不  
到、纔西面有泊宿之濱、今咸燒崩、與海共成陸地、并沙濱二千許町、其嶋東北角有  
新造神院、其中有壘高五百許丈、基周八百許丈、其形如伏鉢、東方片岸有階四重、  
青黃赤白色、沙次第敷之、其上有一閣室、高四許丈、次南海邊有一石室、各長十許  
丈、廣四許丈、高三許丈、其裏五色、積石屏風立之、巖伐波山川、飛雲、其形微妙、難名、  
其前懸夾纈、軟障、即有美麗、瀆以五色沙、成修次、南傍有一磯、如立屏風、其色三分  
之一、悉金色、矣、眩曜之狀、不可取記、亦東南角有新造院、周垣二重、以壘築、各高  
二許丈、南面有二門、其中央有一壘、周六百許丈、高五百許丈、其南片岸有十二間  
室、八臺、南面四基、西面四基、各二十許丈、高十二許丈、其上階、東有屋一基、甃玉  
瓦形、葺造之、長十許丈、廣四許丈、高六許丈、其壁以白石立周、則南面有一戶、其西

方有一屋、以黑瓦葺、作之、其壁塗赤土、東面有一戶、院裏礫砂皆悉、金色、又西北角  
有新作院、周垣未究、作、其中有二壘、基、周各八百許丈、高六百許丈、其體如瓮、伏、南  
片岸有階二重、以白沙敷之、其頂平、麗也、從北角至于未申角、長十二許里、廣五許  
里、皆悉成沙濱、從戌亥角至于丑寅角、八許里、廣五許里、同成沙濱、此二院、元是大  
海、又山岑有一院、一門、其頂有如入坐形、石高十許丈、右手把劍、左手持棒、其後有  
侍者、跪瞻貴主、其邊嵯峨、不可通達、自餘雜物、燎燼未止、不能具注、去承和五年七  
月五日、夜出火、上津嶋左右海中、燒炎如野火、十二童子相接、取炬下海、諸童子履  
潮如地、入地如水、震上大石、以火燒摧、炎場達天、其狀朦朧、所々發、聽其間、經旬、雨  
灰滿部、仍召集諸祝、刀禊等、卜求其祟、云阿波神者、三嶋大社、本后、五子相生、而後  
后授賜冠位、我本后未預、其色、因茲我殊、示惟異、將預冠位、若禊祝等、不申此崇  
者、出免火將亡、徐軍等、因郡司不勞者、將亡、因郡司若成、我所欲者、天下、因郡平安、  
令產業豐登、今年七月十二日、眺望彼雲嶋、烟覆四面、都、不見狀、漸、此、近、雲霧、露  
朗、神作、院、在、等、之、類、露、見、其、良、斯、乃、神、明、之、所、感、也、年、治、云、神、御、上、奇、以、靈  
し、お、今、更、驚、く、お、ら、ぬ、と、此、神、國、子、生、也、う、る、靈、妙、を、聞、お、ら、ぬ、ら、彼、浮、屠、小  
欺、る、は、り、なき、業、あ、ら、ず、や、今、神、業、の、尊、き、を、思、お、ぼ、る、人、小、備、お、ら、し、め、ひ  
ため、神、造、嶋、の、件、を、全、引、出、つ、是、と、此、御、世、の、靈、威、を、再、顯、お、し、給、ひ、あり、○甲  
午、十六日、○大  
三輪、君、と、三輪

十一月戊申朔、大三輪、君、大春日、



君同祖不て、其由崇神紀不見

臣たて○大春日朝臣也、姓氏

臣、阿倍、臣、巨勢、臣、膳、臣、紀、臣、波多、臣、物部、連

録小、出自孝昭天皇、皇子、天帶、考、同、押、人命也、仲臣、令、家、重、千金、委、糟、為、堵、于、時、大、鷦鷯、天皇、臨、幸、其、家、詔、號、糟、垣、臣、後、改、為、春日、臣、桓、武、天皇、延、曆、二、十、年、賜、大、春日、朝、臣、姓、と、つ、と、猶、殊、不、古、も、大、春日、朝、臣、也、つ、つ、○、阿、倍、臣、也、孝、元、紀、不、大、彦、命、是、阿、倍、臣、膳、臣、云、々、九、七、族、之、始、祖、也、○、巨、勢、臣、姓、氏、録、不、巨、勢、朝、臣、石、川、同、氏、巨、勢、雄、柄、宿、禰、之、後、也、又、石、川、朝、臣、條、不、孝、元、天、皇、皇、子、彦、太、忍、信、命、之、後、也、と、あ、つ、雄、柄、也、三、代、實、録、五、小、巨、勢、朝、臣、河、守、等、奏、言、先、祖、出、自、武、内、宿、禰、大、臣、也、第、五、男、巨、勢、男、韓、宿、禰、是、巨、勢、之、祖、云、々、○、膳、臣、也、景、行、紀、不、膳、臣、遠、祖、名、磐、鹿、六、鴈、以、蒲、為、手、綱、白、蛉、為、膾、而、進、之、故、美、六、鴈、臣、之、功、而、賜、膳、大、伴、部、姓、氏、録、膳、大、伴、部、條、不、大、彦、命、孫、磐、鹿、六、鴈、命、之、後、也、と、つ、つ、○、紀、臣、景、行、紀、不、見、也、つ、つ、○、波、多、臣、姓、氏、録、不、八、多、朝、臣、武、内、宿、禰、命、之、後、也、と、つ、つ、應、神、紀、不、羽、田、と、つ、つ、も、同、姓、不、つ、つ、○、物、部、連、崇、神、紀、不、注、せ、つ、つ、○、平、群、臣、雄、略、紀、不、注、せ、つ、つ、○、雀、

平群、臣、雀部、臣、中臣、連、大宅、臣、粟田、臣、石川、臣、櫻井、臣、采女、臣、田中

部臣姓氏録不、雀部朝臣、建内

臣、小墾田、臣

宿禰之後也、星河、建、彦、宿、禰、謚、應、神、御、世、代、於、皇、太、子、大、鷦、鷯、尊、擊、木、綿、櫛、掌、監、御、膳、因、賜、名、曰、大、雀、臣、按、不、鷦、鷯、也、雀、と、つ、つ、の、小、鳥、不、れ、む、古、書、不、雀、字、を、よ、み、つ、ら、へ、と、ど、此、紀、不、て、鷦、鷯、と、書、べ、き、例、多、る、不、此、不、如、斯、記、せ、る、も、無、慮、古、書、不、つ、る、儘、を、書、取、つ、つ、不、つ、つ、○、中、臣、連、神、代、紀、不、中、臣、連、遠、祖、天、見、屋、命、又、中、臣、連、遠、祖、興、台、産、靈、兒、天、見、屋、命、云、々、大、中、臣、本、系、帳、不、高、天、原、初、而、皇、神、之、御、中、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、持、不、願、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、云、々、か、と、と、む、此、氏、也、中、津、臣、の、切、と、は、あ、り、○、大、宅、臣、也、及、正、紀、不、注、せ、つ、つ、○、粟、田、臣、也、彦、國、葺、命、の、後、不、て、推、古、紀、不、注、せ、つ、つ、原、本、粟、を、乘、不、作、り、姑、奴、紀、不、從、不、○、石、川、臣、姓、氏、録、不、石、川、朝、臣、孝、元、天、皇、皇、子、彦、太、忍、信、命、之、後、也、と、つ、つ、猶、應、神、紀、不、見、也、つ、つ、石、川、宿、禰、併、見、る、べ、し、○、櫻、井、臣、也、武、内、宿、禰、の、後、不、て、其、こ、と、舒、明、紀、不、注、せ、つ、つ、○、采、女、臣、上、不、お、ふ、じ、○、田、中、臣、も、上、不、れ、お、ふ、じ、猶、推、古、記、不、注、せ、つ、つ、○、小、墾、田、臣、也、宿、目、宿、禰、の、後、不、て、舒、明、紀、不、注、せ、つ、つ、○、穗、積、臣、也、齋、色、雄、命、の、後、不、て、開、化、紀、不、注、せ、つ、つ、○、山、背、臣、也、

穗積、臣、山背、臣、鴨、君、小野、臣、川邊、臣、櫛井、臣、杵本、臣、輕部、臣、若櫻部











連と国造本紀に、穴門国造、繼向日代朝、御世、櫻井部連同祖、逸伎都美命云々と、  
仍るふおふじより、猶應神紀に、櫻井田部連男祖と云、人見色て、彼処に注せる  
を對、見るべし。○伊福部連と、姓氏録に伊

福部、宿祢、天火明命、子天香山命之後也

巫部連姓氏録

巫部連、忍壁連、草壁連、三宅連、兒

子神饒速日命

六世孫、伊香我  
色雄命之後也

部連、手繼連、丹比連、靱丹比連、漆

雄略天皇御體

部連、大湯人連、若湯人連、弓削連

不豫、因茲召上

筑紫豐國、奇巫、真源、大連率巫、仕奉、仍賜姓巫部連、舊事紀に、物部真源、公、巫

部連、祖、とつとむ、上の源、字を衍とるふや、原本巫を巫と作り、今紀に從ふ

○忍壁連、此姓氏録及史に淺し、これを考ふべきよし、注者刑部と同姓に見つ

と、忍壁とオサカベともよみ、たし。○草壁連も、彦坐命の後にて、上不見

と。○三宅連も、田道間守の後にて、垂仁紀に注せ。○兒部連、姓氏録に、子部

火明命、五世孫、建刀米命之後也、三代實録廿六、子部、氏雄等、賜姓子部宿祢、其

先、天、御中主尊之後也、と、手繼連、姓氏録に、禰多治比宿祢、天火明命十一世

孫、殿諸足、臣命之後也、男、兄、男、庶、其、心、如、女、故、賜、禰、為、御、膳、部、次、弟、男、庶、甚、心、勇、健、

其力足、制、十、千、軍、衆、故、賜、靱、号、四、十、千、健、彦、因、負、姓、靱、負、○丹比連も、上、殖、葉、皇、子

の後、不、て、宣、化、紀、に、注、せ、○靱、丹、比、連、も、手、繼、連、に、注、せ、る、が、如、し、○漆、部、連、も、

三、見、宿、祢、命、の、後、不、て、用、明、紀、に、注、せ、○大、湯、人、連、も、記、の、中、卷、垂、仁、段、に、定、大

湯、坐、若、湯、坐、と、り、る、も、本、牟、智、和、氣、御、子、を、養、育、た、め、諸、国、に、部、曲、を、置、け、以、其、部

内、に、在、る、人、湯、坐、て、不、姓、に、呼、ぶ、ら、ひ、り、む、是、を、工、工、と、よ、め、る、も、雄、略、紀、に、湯、人

此、云、史、衛、と、り、る、も、い、つ、即、皇、子、に、湯、を、浴、す、と、起、り、た、る、号、な、れ、む、衛、と、人

の、轉、へ、○若、湯、人、連、も、大、湯、人、連、と、專、同、義、に、て、以、上、二、氏、と、素、よ、て、一、姓、な、ら、ざ

る、理、な、ら、ず、姓、氏、録、に、若、湯、坐、宿、祢、神、饒、速、日、命、六、世、孫、伊、香、我、色、雄、命、之、後、也、と、り

は、も、其、一、人、に、就、て、の、姓、祖、を、記、せ、居、の、み、○弓、削

連、も、天、日、鷲、翔、矢、命、の、後、不、て、雄、略、紀、に、注、せ、

神服部連、舊事

神服部連、額田部連、津守連、縣犬

紀物部世系條

養連、稚犬養連

不、建、田、背、命、神

服、連、等、祖、と、り

て、即、神、衣、を、織、る、を、職、と、為、し、よ、て、氏、に、負、て、儀、式、大、嘗、祭、儀、に、九、月、上、旬、神、祇、官、

差、神、服、社、神、主、一、人、為、神、使、申、官、賜、驛、鈴、一、口、遣、參、河、國、與、集、神、戶、卜、定、織、神、服、長

二、人、織、女、六、人、工、手、二、人、式、小、攝、津、國、嶋、上、郡、神、服、神、社、見、ゆ、此、氏、人、の、住、し、地、に

や、○額、田、部、連、も、天、津、彦、根、命、の、後、不、て、神、代、紀、に、注、せ、○津、守、連、舊、事、紀、物、部



氏世系、條不、建箇草、命、津守、祖と見ゆ、神功紀不、津守、連之祖、田裳見、宿祢と云れ  
其末あり、○縣犬養連と、阿居、太都命の後ふて、安關紀不注せ、○稚犬養連  
も、尾綱根、命の後ふ  
て、皇極紀不注せ

玉祖、連、姓氏録、玉祖、連、宿祢、高、玉祖、連、新田部、連、倭文、連、倭文、連、此

御牟須比乃命、於、水、命之後也、神代紀不、玉、作上、祖、王、屋、命と云、和名抄、周防国、佐波郡、郷名、玉  
祖、多萬乃於也、と注せる、み、概るべし、○新田部、連、磯城津彦命の後ふて、齊明  
紀不注せ、此、姓、舊事紀不、神別ふも、見ゆ、た、○倭文、連、姓氏録不、倭文、連、

角、凝、魂、命、男、伊佐布、魂、命之後也、名義と、神代紀、倭文、神不注せ、○氷、連、伊香  
色、雄、命の後ふて、孝德紀不注せ、○允海、連、姓氏録不、綿積命六世、孫、小、栲、梨  
命之後也、和名抄、丹後国、加佐郡、郷名、允海、於、布之、安萬と注せ、布と、保の、誤、

、初、此、允海も、オホアマセ、よ、む、べき、こと、崇、神、紀不注し、つ、○山部、連、姓氏録  
不、洩、て、山、邊、と、云、ふ、お、お、じ、き、り、山、邊、公、と、垂、仁、天、皇、皇、子、鐸、石、別、命、之、後、也、と  
見、ゆ、た、、猶、此、姓、不、云、べ、き、み、と、と、顯、宗、紀不記し、お、よ、つ、今、按、不、雄、略、紀不、山、邊、

小嶋子も、歌、不、ヤマノ、ベ、と、よ、み、和、名、抄、不、大、和、国、郡、名、山、邊、を、夜、萬、乃、倍、と、注、せ

る、不、對、て、山、部、を、む、姑、ヤマ、ベ、と、よ、む、べ、し、○矢、集、連、も、姓氏録不、箭、集、宿祢、神、鏡  
速、日、命、六、世、孫、伊、香、我、色、雄、命、之、後、也、和、名、抄、不、駿、河、国、駿、河、郡、郷、名、矢、集、也、都、女

○狹井連、姓、祖、上、不、お、お、じ、是、大、和、国、城、上、郡、の、地、名、不、由、目、連、小、子、部、連、狹井連、瓜工連、阿刀連、茨田連、田

た、る、姓、あり、○瓜工連、も、姓氏録不、神、魂、命、男、多、久、豆、玉、命、之、後、也、雄、略、天、皇、御、世、

造、紫、蓋、瓜、并、奉、餽、御、座、仍、賜、瓜、工、連、姓、と、云、り、按、不、瓜、も、飢、の、省、文、ふ、て、飢、も、新、撰

字、鏡、不、太、万、支、と、注、せ、即、手、不、卷、て、餽、と、為、し、ゆ、え、古、書、不、手、纏、と、書、り、遊、仙

窟、不、黄、龍、透、入、黄、金、劍、注、不、劍、者、以、金、或、玉、為、之、穿、安、臂、上、其、劍、上、鏤、為、龍、形、所、以

纏、腕、と、云、る、ふ、て、炳、し、飢、と、劍、と、互、通、と、し、書、り、和、泉、国、堺、人、某、が、藏、る、天、平、十

五、年、氣、比、社、の、古、文、書、不、從、七、位、下、行、目、劍、直、諸、人、と、云、姓、を、見、た、、○阿、刀、連、も、

饒、速、日、命、の、後、ふ、て、上、不、見、ゆ、た、り、○茨、田、連、も、彦、八、井、耳、命、の、後、ふ、て、仁、德、紀、不  
注、せ、○田、目、連、も、天、日、和、志、命、の、後、ふ、て、皇、極、紀、不、注、せ、○小、子、部、連、も、神、八  
井、耳、命、の、後、ふ、て、雄、略、紀、不、注、せ、

菟道連も、姓氏録、宇治宿祢、菟道連、猪使連、海犬養連、間人連、



鏡連日命六世、孫伊香我色雄命之後也、氏人

三代實錄卅 十氏賜姓曰宿禰

二、宇治宿禰常永と云、人見ゆ○猪使連也、磯城津彦命の後、安寧紀に注

せ、○海犬養連也、姓氏録に海犬養、海神綿積命之後也、氏人も皇極紀に、海犬

養連勝麻呂と云、人見ゆ○間人連也、天、玉櫛彦命の後、推古紀に注せ、○

春米連也、姓氏録に、春米宿禰、神鏡連日命六世孫、伊香色雄命之後也、○氏

人も書、不見、○美濃連、姓氏録に、美努連、角凝、寬命三世孫、天、湯川田奈、命之

後也、○此氏も應神紀三野臣に注せ、○諸會臣考、ふし、○布留連也、姓氏

録に布留宿禰、天足彦、因押人命七世孫、米餅、搗大使、主、命之後也、男木事、命、男、市

川臣大鷦鷯、天皇御世、遠、倭、賀、布都努斯神社於石上郷、布瑠、村、高庭之地、以、市川

臣為神主、四世孫、額田臣、武藏臣、齊明天皇御世、宗我、蝦夷、大臣、号、武藏臣、物部首

并神主、首、因、茲、失、臣、姓、為、物部首、男、正五位上日向、天武、天皇、御世、依、社、地、名、改、布

留宿禰、姓、○癸未、唐國學生土師宿禰甥、白猪

未六日○白猪 史、姓、氏、録、不、洩、た、了、欽、明、紀

史、姓、氏、録、不、洩、た、了、欽、明、紀

史、姓、氏、録、不、洩、た、了、欽、明、紀

史、姓、氏、録、不、洩、た、了、欽、明、紀

史、姓、氏、録、不、洩、た、了、欽、明、紀

史、姓、氏、録、不、洩、た、了、欽、明、紀

○日本紀標注卷之二十五

○二十八

使、連、子、首、筑紫、三宅、連、得、許、傳、新

羅、至、則、新、羅、遣、大、奈、末、金、物、儒、送

甥、等、於、筑、紫、庚、寅、除、死、刑、以、下、罪

人、皆、咸、赦、焉、是、年、詔、伊、賀、伊、勢、美

濃、尾、張、四、國、自、今、以、後、調、年、免、役

役、年、免、調、倭、葛、城、下、郡、言、有、四、足

雞、亦、丹、波、國、冰、上、郡、言、有、十、二、角

續、

抄、小、同、郡、三、宅、郷、何、々、○、待、許、欽、明、紀、私、記、曰、音、讀、○、庚、寅、十、三、日、○、是、年、以、下、四、十、八、字、と、十、一、月、の、末、に、在、し、を、例、に、述、ぶ、此、に、記、し、つ、○、四、足、雞、と、天、智、十、年、紀、に、注、せ、り、○、十、二、角、續、支、那



書小、牛膝も数多記せれど、かゝる奇蹟を見ず

戊申二月朔、朝庭、原本拜を朔、誤り、類聚国史に於て改む。○丁卯廿一日、○明位二階、職原抄、明大一位、明廣一位、明大二位、明廣二位と分記せて、續紀二、親王明冠四階とあるは、是を云、官位令、親王品位を制る義解、品

十四年春正月、丁未朔戊申、百寮拜朝庭、丁卯、更改爵位之號、仍增加階級、明位二階、淨位四階、每階有大廣、并十二階、以前諸王已上之位、正位四階、直位四階、勤位四階、務位四階、追位四階、進位四階、每階有大廣、并四十八階、以前諸臣之位、是日草壁皇子、尊授淨廣

位也、親王稱品者、別於諸王と云、むが如し。○淨位四階、職原抄、淨大一位、淨廣一位、淨大二位、淨廣二位、淨大三位、淨廣三位、淨大四位、淨廣四位。○十二階も、先の四階も八階を合、なるあり。○諸王已上之位、上代を親王諸王とのく、爵位も別あるしを、令後より諸王諸臣混、差別あり、但此小制、たまへると、諸王以上と、諸臣とを格別あるをや。○正位四階、職原抄、正大一位、正廣一位、正大二位、正廣二位、正大三位、正廣三位、正大四位、正廣四位と記せ、直位四階以下准、てるは、べし。○每階有大廣、和名抄、正四位上、於保伊與豆乃久良井乃、加美豆之奈、從八位下、比呂伊夜豆乃久良井乃、之毛豆之奈とあり、如く、正を於保伊從を比呂伊とよめると、此の大廣の訓を取、位を之奈とよめると、階級の意、ふて、四十八階の讀法、搜、て知るべし。○庚

壹位、大津、皇子授淨大貳位、高市、皇子授淨廣貳位、川嶋、皇子忍壁、皇子授淨大參位、自此以下諸王諸臣等、增加爵位、各有差

二月丁丑朔庚辰、唐人、百濟人、高



辰四日○巳未  
十四日○辛酉  
十六日○京職  
大夫、和名抄、  
左京職、比多利  
乃美佐止豆加  
佐、左京職云々、  
大夫、加美○辛  
檀努之、孝德紀  
小、紫標、小作也  
○壬申、廿七  
日○灰零、九年  
六月、條、小見、  
たり○巳卯、四  
日○牟婁湯泉  
之、齊明紀、小見  
臣たり○丁亥  
十二日○壬辰

麗人、并百四十七人、賜爵位、三月  
丙午朔巳未、饗金物儒、於筑紫、即  
從筑紫歸之、仍流著新羅人七口、  
附物儒還之、辛酉、京職大夫直大  
參、巨勢、朝臣辛檀努卒、壬申、詔諸  
國每家作佛舍、乃置佛像及經、以  
禮拜供養、是月灰零於信農國、草  
木皆枯焉、夏四月、丙子、朔巳卯、紀  
伊國司言、牟婁湯泉没、而不出也、

十七日○庚子  
廿五日○庚戌  
五日○甲子、十  
九日○讓位于  
父、公卿補任、  
中納言正三位、  
粟田朝臣真人、  
左大臣嶋、一男  
○辛未、廿六日  
○大倭連、七、倭  
直と同祖、稚根  
津彦の後あり  
○山背連、以上、  
十二年、條、小注  
せり○難波連  
と、皇別と蕃種  
と二氏あり、是  
と何とあらむ

丁亥、祭廣瀨龍田神、壬辰、新羅人  
金主山歸之、庚子、始請僧尼安居  
于宮中、五月丙午朔庚戌、射於南  
門、天皇幸于飛鳥寺、以珍寶奉於  
佛、而禮敬、甲子、直大肆粟田朝臣  
真人讓位于父、然勅不聽矣、是日  
直大參當麻呂、真人廣麻呂卒、以壬  
申、年之功、贈直大壹位、辛未、高向  
朝臣麻呂、都努、朝臣牛飼等、至自



○紀酒人連て  
神櫛、王の後ま  
るゝ、上み注せ  
るが如し。○倭  
漢連て、應神紀  
み、倭漢直祖阿  
知、使主、と見え  
たり。○河内漢  
連、秦連共み、十  
二年、條み見え  
たり。○大隅直  
姓氏録み、大角  
隼人出自、火闌  
降、命之後、と  
又、續紀卅三み、外從五位下、大住、忌寸三行、為隼人正とあり、みどふて、姓祖を知  
るべし。同三十み、大住直倭と云人も見ゆ。大角大住共み、大隅みおあじ。○書連  
は、應神紀み、王仁者、  
是書、首等之始祖也。

新羅、乃學問僧觀常、雲觀從、至之。  
新羅王、獻物、馬二匹、犬三頭、鸚鵡  
二隻、鵲二隻、及種々寶物、六月乙  
亥朔甲午、大倭連、葛城連、允川内、  
連、山背連、難波連、紀酒人連、倭漢  
連、河内漢連、秦連、大隅直書連、并  
十一氏、賜姓曰忌寸、  
又、續紀卅三み、外從五位下、大住、忌寸三行、為隼人正とあり、みどふて、姓祖を知  
るべし。同三十み、大住直倭と云人も見ゆ。大角大住共み、大隅みおあじ。○書連  
は、應神紀み、王仁者、  
是書、首等之始祖也。

乙丑廿一日 ○  
庚午廿六日 ○  
朱華、万葉四み、  
不念帝、曰、手師  
物乎、翼、酢色之、  
變安寸、吾意可  
聞、同十一み、翼  
酢色、乃赤裳之、  
為形、夢所見、管  
同八み、唐、棣花  
歌とて、夏儲而  
開有波、禰受み  
ど、併れもみ、み  
首夏みかけて、  
赤色み咲出る  
花ありと察ゆ、  
爾雅釋木み、唐、棣、核、疏み、郭云、似白楊、江東呼夫核、詩、召南云、唐、棣、之華、陸機云、與  
李也、一名雀梅、其華或白或赤、六月中熟、大如李子、可食、論語み、も、郁李也、と注せ

秋七月乙巳朔乙丑、祭廣瀨龍田  
神、庚午、初定明位、已下、進位已上、  
之朝服、色、淨位已上、並著朱華、  
此云波、正位、深紫、直位、淺紫、勤位、  
深緑、務位、淺緑、追位、深蒲萄、進位、  
淺蒲萄、辛未、詔曰、東山道、美濃以  
東、東海道、伊勢以東、諸國、有位人  
等、並免課役



大和本草云、郁李ハ花モ實モユスラヨリオソシ、實ノ形ユスラヨリ、大ニメ  
 マルシ、ユスラ庭櫻ト一類ナレト、別ナリト注シ、本草啓蒙ハ、郁李トニハウ  
 メトヨメテ、庭梅ト白花紅蓮ト、遠クヨクモ薄紅ト見ユテ、甚美トシキモノ  
 あり、故、赤色を朱華ト云リ、○深紫トコキムラサキトヨビ、後撰集ハ、  
 思ひまや君ウ衣をぬきウテ、あきむらさきの色を見むト、其を略テ、古今  
 小ぬやへもいろじ濃むらさきトヨメ、○淺紫、和泉集ハ、かすらむらじと、いろ  
 べし、○深緑ト、ツカミドリ、淺緑トアサミドリトヨメテ、上の深淺ト讀法ヲテ  
 じり、○深蒲萄、淺蒲萄ト、上の紫トおまじく、深淺トヨビ、是ト今云、蒲萄、深  
 の色の濃ト薄ト、きとをいふ、衣服令蒲萄の義解ハ、蒲萄者紫色之最淺者也云々、  
 此蒲萄色の深ト薄ト、縫殿式ハ、蒲萄、綾一疋、紫草三  
 斤酢一合、灰四斗薪四十斤トリ、○辛未廿七日  
 乙酉十二日、○  
 浄土寺、詳あり  
 鳥寺ト云、○  
 丙戌十三日、○  
 川原寺ト、大和

八月甲戌朔乙酉、天皇幸于浄土  
 寺、丙戌、幸于川原寺、施稻於衆僧、  
 癸巳、遣耽羅使人等還之、九月甲

国高市郡、川原  
 村、在、○癸巳  
 廿日、○壬子九  
 日、掃部式ハ、九  
 月九日、菊花宴  
 神泉苑、殿上、供  
 御座、及設、参議  
 已上座、又帷下  
 侍從文人等座、  
 云々、今日重陽  
 宴、テ、今年を此ことの始、ま、る、びを、公事根源、ハ、其起源を洩セ、テ、類聚国史  
 三十一、大同二年九月、條ハ、幸、神泉苑、琴歌、聞奏、四位已上、共、排、菊花、于、時皇太弟  
 頌歌云、美、那、比、度、乃、曾、能、可、邇、米、豆、留、布、智、波、賀、麻、岐、美、能、於、保、母、能、多、乎、利、太、流  
 祢、布、上、和、之、曰、表、理、比、度、能、已、已、呂、乃、麻、真、丹、布、智、波、賀、麻、宇、倍、伊、呂、布、賀、久、爾、保  
 比、多、理、介、利、上、代、菊、を、藤、袴、ト、云、り、ひ、万、葉、ハ、の、七、種、の、歌、ハ、又、藤、袴、朝、顔、之、花、ト、  
 何、も、も、菊、なる、ぞ、よ、○舊宮を、岡本宮を、云、○甲寅十一日、○宮處王、詳、あり、ず、是  
 ち、ミ、ヤ、コ、と、訓、べ、く、ハ  
 も、へ、ど、姑、舊、讀、ハ、從、ふ

辰朔、壬子、天皇宴于舊宮安殿、之  
 庭、是日皇太子以下、至于忍壁皇  
 子、賜布各有差、甲寅、遣宮處王、廣  
 瀨、王、難波、王、竹田、王、彌努、王、於京  
 及畿内、各令按人夫之兵



戊午十五日○  
巡察七職員令  
太政官下小巡  
察使掌巡察諸  
國不常置應須  
巡察權於內外  
官取清正灼然  
者充又彈正臺  
小大忠一人掌  
巡察內外糾彈  
非違云々此事  
の見過たるを  
清寧二年紀不  
遣臣連巡省風  
俗とらるる始  
まる持統八年  
紀不遣巡察使  
於諸國續紀一

戊午直廣肆都努朝臣牛飼爲東  
海使者直廣肆石川朝臣虫名爲  
東山使者直廣肆佐味朝臣少麻  
呂爲山陽使者直廣肆巨勢朝臣  
粟持爲山陰使者直廣參路真人  
迹見爲南海使者直廣肆佐伯宿  
禰廣足爲筑紫使者各判官一人  
史一人巡察國司郡司及百姓之  
消息是日詔曰凡諸歌男歌女笛

小依巡察使奏  
狀詔諸國司等  
隨其能進階同十五不爲檢天下諸國政績治不  
今差巡察使分道發遣○歌男上不見也  
辛酉廿八日○  
博戲七双六不  
持統三年紀  
不禁斷雙六○  
境部宿禰石積  
孝德紀不見  
運たる坂合部  
宿禰磐積と同  
人不見乃らじ  
此紀不見ハハ  
必磐と書て  
石をむいしと  
よめる例ふれ  
石積と磐積

吹者即傳已子孫令習歌笛  
辛酉天皇御大安殿喚玉卿等於  
殿前以令博戲是日宮處王難波  
王竹田王三國真人友足縣犬養  
宿禰大侶大伴宿禰御行境部宿  
禰石積多朝臣品治采女朝臣竹  
羅藤原朝臣大嶋凡十人賜御衣  
袴壬戌皇太子以下及諸王卿并



とも別人ふる  
べし○壬戌十  
四十八人賜  
羆皮山羊皮各有差

九日○山羊とカマシ、とよ  
ゆるふと、皇極紀に見えたる

癸亥、遣高麗國使人等還之、丁卯、

爲<sup>シタラ</sup>天皇體不豫之、三日誦經於大

宮、大寺、川原寺、飛鳥寺、因以稻納

三寺各有差、庚午、化來高麗人等、

賜祿各有差、冬十月癸酉朔丙子、

百濟僧常輝、封三卜戶、是僧壽百

歲、庚辰、遣百濟僧法藏、優婆塞益

雖在居家持五  
戒男女不同宿

田、直金鍾於美濃、令煎白朮、因以

賜絕綿布

國貢一、伊蒲塞とらるも、優婆塞を云、曾丹集み、河上や笠きのいもや、氣を寒

み、苦をむしりとあらすく、べそく、按ふ俗人ふして、佛を信むはもの、稱ふて、

男女不同宿とらるを思へを、親鸞宗派の僧より、一段優たるものを云、○益田

直、續紀廿六、越前国足羽郡人、從五位下益田、繩手、賜姓益田連、類聚国史九十

九職官部、益田忌寸満足と云、人見ゆとど、姓祖詳ふらず、○煎白朮、新撰字鏡

ふ、白朮、乎介良と注し、万葉十四、宇家良とよめ、是も山草、蒼朮、白朮

の二種、一葉或も三葉、花を白く根も大にして曲れ、本草綱

目、久服、輕身延年不餓云々、原本煎を並み作り、釈紀に拠りて改む

壬午、遣輕部朝臣足瀨、高田、首新  
家、荒田尾、連麻呂、於信濃、令造行  
宮、蓋擬幸束間、温湯、歟、甲申、以淨



信濃國の郡名不て、和名抄小筑摩、豆加萬と注せり。○甲申十二日○畿内之役也、信濃不行幸あり。○巳丑十七日○是日を、原本是月小作より、通證小一本不扱、たる小從ふ。○金剛般若經と、金剛般若波羅密經不て、深、菩提流支と、姚秦羅什と、深、真諦と一卷宛譯せり。○甲辰二日○惣令所、續紀一、以直大壹石上朝臣麻呂為筑紫、惣領、直廣參波多、朝臣辛後

大肆泊瀬王、直廣肆巨勢、朝臣馬飼、判官以下并二十人、任於畿内之役。巳丑、伊勢王等亦向于東國、因以賜衣袴。是日說金剛般若經於宮中。十一月癸卯朔甲辰、儲用鐵一萬斤、送周芳、惣令所、筑紫、大宰、請儲用物、繩一百疋、絲一百斤、布三百

閉、為周防、摠領云々、山陽を併たる府を、周防不置しあり。○庸布、孝徳紀不注せり。○箭竹、矢不作る竹不て、和名抄不笑、其體、曰、籜夜加良と注せる如く、葉廣く皮を著たる竹を、ヤガラと云て、是を皮竹と云。○丙午四日○大角、和名抄不、楊氏漢語抄云、大角、波良乃布江、通證小波良、寶螺所謂螺角是也と云。○小角と、和名抄不、久太能布江と何、管、笛あり。○弩抛、和名抄不、弩、於保由美、抛と推古紀不注せり、原本抛を枕不誤也。○戊申六日○白錦後苑、詳あらず。○丙寅廿四日○招魂之、鎮魂祭不て、

端、庸布四百常、鐵一萬斤、箭竹二千連、送下於筑紫。丙午、詔四方國曰、大角、小角、鼓吹、幡旗、及弩抛之類、不應存私家、咸收于郡家。戊申、幸白錦、後苑。丙寅、法藏法師金鐘獻白朮煎。是日為天皇招魂之、巳己、新羅遣波珍、冷金智祥、大



神祇令四時祭  
式等小十一月  
阿食金健勳請政仍進調

中寅日不行もじめゆふも此御代の此日を例と為しふや此ふとの委も舊事  
紀十種神寶の件を見はべし此招魂をミタマフリとよめると舊事紀も若  
痛處者令茲十寶謂一二三四五六七八九十而布瑠部由良由良止布瑠部如此  
為之者死人反生矣是則所謂布瑠部之言本矣と云江次第鎮魂祭條も振動と  
うるまど合せてミタマフリも御魂を鎮むるため神寶を  
振を云○巳巳廿七日○波珍食原本珍を珍小誤と

十二月壬申朔乙亥遣筑紫防人  
等飄蕩海中皆失衣裳則為防人  
衣服以布四百五十端給下於筑  
紫辛巳自西發之地震丁亥純綿  
布以施大宮大寺僧等庚寅皇后

命以王卿等五十五人賜朝服各  
一具  
朱鳥元年春正月壬寅朔癸卯御  
大極殿而賜宴於諸王卿是日詔  
曰朕問王卿以無端事仍對言得  
實必有賜於是高市皇子被問以  
實對賜綦指御衣三具錦袴二具  
并純二十疋絲五十斤縣百斤布  
一百端伊勢王亦得實即賜皂御

朱鳥の訓七月  
條不見也  
○癸卯二日○  
無端事、秋紀  
兼方案之、今世  
何何歟とあり  
即謎々して拾  
遺集ふ、ふぞく  
物語をえらる  
散木集ふ、或人  
のこゝろ、あが  
く、この語を  
を、あまた作て  
解らせふ、つり



是ら併思ふ  
無端事と  
同物あるべし  
古今著聞集  
世に  
何りらと  
は

衣三具、紫袴二具、絁七疋、絲二十  
斤、縣四十斤、布四十端、是日攝津  
國人、百濟、新興獻白馬瑠

も、つとふきことをすまじきまことなりと云、  
一人恭摺袖と有り、是をハギスリとよめるも、催馬樂更衣ハ波支乃波乃須利  
と有り、恭を捺ありよとし、万葉七ハ住吉之遠里小野之真捺以、須禮流衣乃盛  
過本伎、仮名ハ同十四ハ、伊香保呂能蘇比乃波里波良と有り、此捺を東國ハ  
て、ハンノ木とよび其皮を以て衣を染ること、今も然、上代ハ紫の根より、藍  
より忍ぶまりまど、衣ハ摺着しをや、○百濟和名抄攝津國郡名、百濟久太郎良  
ト注し、此郡四百年前より廢て大坂坊名ハ久太郎町と云、  
物語十四ハ見送れる、百濟寺ハ同地ハ、原本濟字を脱せ、秋紀ハ撰て補ふ  
○白馬瑠和名抄ハ、俗音女奈字と有り、訓を洩せれ、素ハ本訓ハ不  
しハ、本草綱目の訓注ハ、平末乃那豆幾と有り、字ハ泥、たる俗訓ハ、白馬  
瑠ハ白色ハ、玳瑁の班ハ、俗  
ハ玳瑁馬瑠と云、尤佳品あり

庚戌九日  
三綱者上座、寺  
主、都維那也  
○養之物  
を與、ろを、  
ルと云、  
雅俗

庚戌、請三綱律師及大宮大寺知  
事佐官、并九僧、以俗供養、養之、仍  
施絁絲布各有差、辛亥、諸王卿各  
賜袍袴一具、甲寅、召諸才人博士、  
陰陽師醫師并廿餘人、賜食及祿

小涉、通語あり、落窪物語ニハ、  
ふくまて見んと惑ひぬへむ、十訓抄十一ハ、  
物乞りるハ、東方ハ居たり人、  
十日、甲寅十三日、陰陽師職員、  
占者極數、知來日占也、  
員令典藥寮ハ、醫師十人、掌療諸疾病及診候、  
○三十七



師の略して、其由允恭紀に注せり、并下  
廿、字を脱せり、類聚国史に抄て補ふ

乙卯十四日、  
難波大藏省、按  
小難波を海陸  
輻湊の地とれ  
と被地にも、大  
藏省を置し、  
兵庫職、職  
員令に左右兵  
庫寮、頭一人掌  
左兵庫儀仗兵  
器安置得所出  
納曝涼及受事  
覆奏事、丁巳  
十六日、  
類聚国史に從

乙卯、酉、時難波、大藏省失火、宮室  
悉焚、或曰阿斗、連藥家、失火之引  
及宮室、唯兵庫職不焚焉、丁巳、天  
皇御於大安殿、喚諸王、卿賜宴、因  
以賜絶絲布、各有差、是日問群臣  
以無端事、則當時得實、重給絶綿  
戊午、宴後宮、巳未、朝庭大舖、是日  
御窟殿前、而倡優等賜祿有差、亦

上○戊午十七  
日○巳未十八  
日○御窟殿下  
小宮中御窟院  
とありふれふ  
じ○庚申十九  
日○浄廣肆原  
本浄字を落せ  
て、下文に抄て  
補ふ○甲戌四  
日○侍臣七、侍  
從あり、職員令  
中務省に侍從  
八人掌常侍規  
諫、拾遺補朝、和  
名抄ふ、於毛止  
比止萬知岐美、と注  
せり○乙亥五日

歌人等賜袍袴、庚申、地震是月爲  
饗新羅、金智浄、遣浄廣肆川内、王、  
直廣參大伴、宿禰安麻呂、直大肆  
藤原朝臣大嶋、直廣肆堺部、宿禰  
鯛魚、直廣肆穗積、朝臣虫麻呂等、  
于筑紫、二月辛未朔甲戌、御大安  
殿、侍臣六人授勤位、乙亥、勅選諸  
國司、有功者九人、授勤位



丙午六日○大  
辨官上見  
日○乙丑廿五  
日○丁丑八日  
○侍醫孝德紀  
小注せり○桑  
原村主神功紀  
不見也た原  
本原字を脱せ  
又新紀不擬て  
補小○壬午十  
三日○伎樂推  
古紀小注せり  
○細馬孝德紀  
小注せり○騾  
上小見也た  
○鑲金字の

三月辛丑朔丙午大辨官直六參  
羽田真人八國病爲之度僧三人  
庚戌雪之乙丑羽田真人八國卒  
以壬申年之功贈直大壹位夏四  
月庚午朔丁丑侍醫桑原村主訶  
都授直廣肆因以賜姓曰連壬午  
爲饗新羅客等運川原寺伎樂於  
筑紫仍以皇后宮之私稻五十束  
納于川原寺戊子新羅進調從筑

如し新撰字鏡  
小鑲刻也金乃  
知利婆女○霞  
錦上小注せり  
原本顛倒集解  
小改たる小從  
小○屏風日本  
後紀廿二小屏  
風一帖障子册  
六枚施入東寺  
和名抄小七尺  
屏風と記せる  
のりみて訓を  
洩せり○丙申  
十七日○多紀  
皇女天皇の  
御女○山背姫王詳あらざり○石川夫人  
才續紀三小詔石川夫人益封一百戸

紫貢上細馬一足騾一頭犬二狗  
鑲金器及金銀霞錦綾羅虎豹皮  
及藥物之類并百餘種亦智祥健  
勲等別獻物金銀霞錦綾羅金器  
屏風鞍皮絹布藥物之類各六十  
餘種別獻皇后皇太子及諸親王  
等之物各有數丙申遣多紀皇女  
山背姫王石川夫人於伊勢神宮



戊申九日○癸  
丑十四日○丙  
辰十七日○癸  
亥廿四日○癸  
師經、藥師瑠  
璃光七佛本願  
功德經、云、二  
卷の書あり○  
戊辰廿九日○  
左右大舍人、職  
員令、左、大舍  
人察、右、大舍人  
察准、此、頭一人  
掌左大舍人名  
帳、分番宿直、假  
使容儀、事云々、  
猶雄略紀、注  
せ、○槻本村

五月庚子朔戊申、多紀、皇女等、至  
自伊勢、是日侍醫百濟人億仁、病  
之臨死、則授勤大壹位、仍封一百  
戶、癸丑、勅之大宮大寺、封七百戶、  
乃納稅三十萬束、丙辰、宮人等、增  
加爵位、癸亥、天皇體不安、因以於  
川原寺、說藥師經、安居于宮中、戊  
辰、饗金智詳等、筑紫、賜祿各有差、  
即從筑紫退之、是月勅遣左右大

主、神功紀の  
細字、不見、  
○庚午二月  
○工匠も、木工  
察の官吏あり  
○乙亥七日○  
戊寅十日○草  
薙、熱田縁起  
不、勅有司、還置  
于尾張國熱田、  
社、自爾以來、始  
置社守七員、並  
免、徭役、案、天  
智天皇七年、賊  
僧道行、寶劔  
を盗取し、  
今年、至、十  
九年の、間、禁中

舍人等、掃清諸寺、堂塔、則大赦、天  
下、囚獄已空、六月、己巳朔、槻本村  
主勝麻呂、賜姓、曰連、仍加勤大壹  
位、封二十戶、庚午、工匠陰陽師侍  
醫、唐國、學生、及一二、官人、并三十  
四人、授爵位、乙亥、選諸司、人等、有  
功二十八人、增加爵位、戊寅、卜天  
皇、病、崇草薙、劔、即日送置于尾張、  
國、熱田、社、庚辰、雩之、甲申、遣伊勢、



不留、終ひし不  
 大そ ○ 庚辰十  
 二日 ○ 甲申十  
 六日 ○ 身體上  
 原本以、字ニッ  
 一を、行り  
 ○ 和上、續紀十  
 九不、和上鑿真  
 小僧都良弁、同  
 廿一不、大僧都  
 鑿真和上戒行  
 轉、潔云々、号、曰  
 大和上、三代實  
 録八不、制法橋  
 上人位、法眼和上、位、法印大和尚位等、三階、以為律師已上之位、此和上を通し  
 て、和尚とも書けり、續博物志不、和尚、胡名尸梨蜜、宋云高座、翻譯名義集不、和尚、  
 外国語、漢言知有罪無罪也云々、此外諸説多し ○ 師位、三代實録八不、制定僧  
 綱位階、詔曰、国典所載、僧位之制、本有三階、滿位法師位、大法師位、是也云々 ○ 御

王及官人等、於飛鳥寺、勅衆僧、曰、  
 近者朕身不和、願賴三寶之威、以  
 身體欲得安和、是以僧正僧都及  
 衆僧、應誓願、則奉珍寶於三寶、是  
 日三綱律師、及四寺和上、知事、并  
 現有師位僧等、施御衣御被各一  
 具

被、和名抄不、衾、大被也、布須萬と注し、續後紀三不、宴侍從已上於紫宸  
 殿、賜御被、是夜著る衣不、万葉五不、麻被引可賀布利とよめり  
 丁亥十九日 ○  
 悔過、翻譯名義  
 集不、懺摩此懺  
 悔過、云、是  
 とクエクソと  
 よめるも、拗音  
 あり、うゝる音  
 と古音ありと、  
 云、るそりら、ず、是も支那国の宋と云し、世に渡り行し僧ら、彼地の俗音を習ひ、  
 佛經と讀えて、歸て廣たるふれむ、仮に佛經音と云、べきよしを、音韻啓蒙論  
 にかきたり ○ 庚寅廿二日、原本庚寅以下八字を、秋七月上不記せ  
 れど、干支違、と改つ ○ 名張も、伊賀国の郡名あり ○ 丙申廿八日  
 巳亥、原本巳と  
 乙不、作とよこ  
 誤あり ○ 庚子  
 二日 ○ 脛裳上

丁亥、勅遣百官人等、於川原寺、爲  
 燃燈供養、仍大齋之、悔過也、庚寅、  
 名張、厨司災之、丙申、法忍僧義照  
 僧、爲養老、各封三十戸

秋七月巳亥朔、庚子、勅夏男夫著  
 脛裳、婦女垂髮于背、猶如故、是日



不見正天皇  
辛丑三月○壬寅  
寅四日○徭仗  
賦役令小遭父  
母喪並免期年  
徭役○癸卯五  
日○國懸神式  
小紀伊國名草  
郡國懸神社百  
餘抄長寛元年  
正月廿八日、紀伊國日前國懸神燒亡、於御正休者奉出○飛鳥社、式小大和國  
高市郡、飛鳥坐神社四座○住吉大神式小攝津國住吉郡住吉坐神社四座  
丙午八月○戊  
申十日○民部  
省和名抄不、多  
美乃都加佐と  
注し、民部卿才  
上不見正天皇

僧正僧都等、參赴宮中、而悔過矣。  
辛丑、詔諸國大解除、壬寅、半減天  
下之調、仍悉免徭役、癸卯、奉幣於  
居紀伊國、國懸神、飛鳥四社、住吉  
大神。  
丙午、請一百僧、讀金光明經於宮  
中、戊申、雷光南方、而一大鳴、則天  
災於民部省、藏庸舍屋、或曰忍壁

○癸丑十五日  
○皇太子を申  
壁、皇子を申○  
甲寅十六日○  
丁巳十九日○  
乙酉年を本年  
あり○戊午廿  
二日○朱鳥扶  
桑略記、十五  
年大倭國進赤  
雉、仍七月改爲  
朱鳥元年とあ  
る、初年号を訓  
讀をべきも猶  
例あり、十載集  
の序に、我君世  
をあらしめし  
て、たゆちるじ

皇子、宮失火、延燒民部省、癸丑、勅  
曰、天下之事、不問大小、悉啓于皇  
后及皇太子、是日大赦之、甲寅、祭  
廣瀨龍田神、丁巳、詔曰、天下百姓、  
由貧乏而貸稻、及貸財者、乙酉年  
十二月三十日以前、不問公私、皆  
免原、戊午、改元曰朱鳥元年、  
仍名宮曰飛鳥淨御原宮、  
丙寅、選淨行者七十人、以出家、乃



めゆふと名つ  
 けし年より云  
 々、保元あり此  
 外風葉集の序  
 云ふみふし  
 といふ年のや  
 とせ云々、四季物語の奥書よりけたまつと云としの、ゆらたはる元の年、ふど  
 たり、准、知るべし。○浄御原宮も、美祿あり、大和志、高市郡上居村。○丙寅廿  
 八日、御窟院も、上の御窟殿におふじ。○観音、翻譯名義集、阿那婆婁吉低輸、  
 此、云、觀世音、能所圓融、有無兼暢、照窮正性、察其本末、故稱觀也、世音者是所觀之  
 境也云々。○觀世音經も、法  
 華經第八の、普門品を云々。○  
 庚午二月○丁  
 丑九日○辛巳  
 十三日○土左  
 大神、上、注せ  
 又○皇太子、原  
 本、天皇太子、大

設齋於宮中、御窟院、是月諸王臣  
 等、爲天皇造觀音像、則說觀世音  
 經於大宮、大寺、  
 八月己巳朔、爲天皇度八十僧、庚  
 午、度僧尼并一百、因以坐百菩薩  
 於宮中、讀觀音經二百卷、丁丑、爲

津皇子不作也  
 又通證集解等  
 云、天行と  
 として、削と  
 小從ふ、是皇  
 太子と、大津皇  
 子との、意不見  
 るべし。○癸未  
 十五日○巳丑  
 十一日○檜隈  
 寺、大和志、在  
 高市郡檜隈村  
 ○輕寺、志、在  
 同郡大畠留村  
 ○大窪寺、志、在  
 在同郡大久保  
 村、以上何れも、廢て、古蹟存り、とぞ。○辛卯廿三日○  
 巨勢寺、大和志、在葛上郡古瀬、今廢て礎石存り、

天皇體不豫、祈于神祇、辛巳、遣秦  
 忌寸石勝、奉幣於土左、大神、是日  
 皇太子、大津皇子、高市皇子、各加  
 封四百戸、川嶋皇子、忍壁皇子、各  
 加百戸、癸未、芝基皇子、磯城皇子  
 各加二百戸、巳丑、檜隈寺、輕寺、大  
 窪寺、各封百戸、限三十年、辛卯、巨  
 勢寺、封二百戸



辛丑四日○丙  
午九日○御年  
を脱せし○戊  
申十一日○辛  
酉廿四日○大  
津皇子謀反も  
持統前紀不見  
也○甲子  
廿七日○進莫  
字書小真薦也  
○大海宿禰も  
上不見也○此  
九海あり、此  
浦を續紀ニ  
し、凡海宿禰  
鎌不作也、按  
小天皇の元の  
御名を大海と

九月戊戌朔辛丑、親王以下逮于  
諸臣、悉集川原寺、為天皇病誓願  
云云、丙午、天皇病遂不差、崩于正  
宮、戊申、始發哭、則起殯、宮於南庭、  
辛酉、殯于南庭、即發哀、當是時、大  
津皇子謀反於皇太子、甲子、平且  
諸僧尼、發哭於殯庭、乃退、是日肇  
進奠、即誅之、第一大海宿禰、  
誅壬生、事次、淨大肆伊勢王、誅諸

初しを以思ふ  
小、此蕪蒲り親  
族よ、天皇の  
御乳母も、参  
りむ、故壬生  
のよとを誅せ  
○壬生を仁  
德紀推古紀等  
み、定壬生部と  
りる所も注せ  
○當麻真人  
国見も、續紀ニ  
み、一、百戸、不封らる○内命婦も、仁德紀も注せ○紀朝臣真人も、日本後紀十  
三、み、常陸守從四位下、みして卒○膳職も、大膳職も、て、職員令も、大夫一人、掌諸  
国、調雜物、及造、庶膳羞  
醜、菹醬、鼓未、醬、云々上  
乙丑廿八日○  
布勢朝臣御主

王、事、次直大參縣、大養、宿禰、大伴、  
惣、誅、宮内、事、次、淨、廣、肆、河内、王、誅、  
左右大舍人、事、次直大參當麻、真  
人、國見、誅、左右兵衛、事、次直大肆  
采女、朝臣、筑羅、誅、内命婦、事、次直  
廣、肆、紀、朝臣、真人、誅、膳職、事、  
○日本紀標注卷之二十五  
○四十四



人續紀三々右大臣從二位阿倍朝臣御主人スシヒト、誅太政官、  
 事次直廣參石上朝臣麻呂、誅法リ、  
 官事次直大肆大三輪朝臣高市ヲサヘルソカサノ、  
 麻呂、誅理官事次直廣參大伴宿ヲサヘルソカサノ、  
 禰安麻呂、誅大藏事次直大肆藤ツハモソカサノ、  
 原朝臣大嶋、誅兵政官事ツハモソカサノ、  
 天下之事悉決此官。○石上朝臣麻呂續紀七々左大臣正二位右朝臣磨薨云々大臣泊瀬朝  
 倉朝庭大連物部目之後難波朝衛部大華上守麻乃之子也一本乃を子小作也  
 ？○法官上小注せ？○大三輪朝臣高市麻呂卒勅贈從三位大花上利金之子也  
 三々左京大夫從四位上大神朝臣高市麻呂卒勅贈從三位大花上利金之子也  
 ○理官治部省小て上小見也なり○大藏清室紀小注せ？○藤原朝臣大嶋上  
 小見也なり、原本藤を蔽小作なり○兵政官和名抄小、兵部省都波毛乃々都加

佐と注せ？○  
 丙寅廿九日○  
 阿倍久努朝臣、  
 續紀五々從三  
 位阿倍朝臣宿  
 奈麻呂言從五  
 位上引田朝臣  
 迹間從七位下  
 久努朝臣御田  
 次少初位下長  
 田朝臣太麻呂  
 等六人實是阿  
 倍氏、正宗與宿奈麻呂無異、但緣居處更成別氏云々、ら、且む久努也地名ある  
 こと柄を舊事紀小、物部印岐美連公久奴直祖とある、別姓あるをや○刑  
 官和名抄小、刑部省宇多倍多々須都加佐三代實錄十小刑部奏言承前之例、訓  
 刑部省號訴訟之司夫名不正則事不從、又名以召實事放象、何以判斷之司、可謂  
 訴訟之司、望請訓刑部省三字將號判法之司、至是有勅云宜號定訟之司○民官  
 和名抄小、民部省多美乃都加佐○阿多隼人上小注せ？○倭河内馬飼部也、何

大參布勢朝臣御主人誅太政官、  
 事次直廣參石上朝臣麻呂、誅法、  
 官事次直大肆大三輪朝臣高市、  
 麻呂、誅理官事次直廣參大伴、宿  
 禰安麻呂、誅大藏事次直大肆藤  
 原朝臣大嶋、誅兵政官事、  
 丙寅、僧尼亦發哀、是日直廣肆阿  
 倍久努朝臣麻呂、誅刑官事次直  
 廣肆紀朝臣弓張、誅民官事次直  
 廣肆穗積朝臣虫麻呂、誅諸國司  
 事次大隅阿多隼人及倭河内馬  
 飼部造各誅之



とも姓して倭馬飼造と上り注し、  
河内馬飼首と、繼體紀に注せり

丁卯晦日○百  
濟王良虞と續

紀十二に散位  
從四位下、百濟

王耶真卒○百  
濟王善光と天

智紀に以百濟  
王善光、居于難

波とあり、外に  
去りしつ

丁卯、僧尼發哀之、是日百濟王良

虞、代百濟王善光而誅之、次國國、

造等隨參赴、各誅之、仍奏種種歌

舞



日本紀標注卷之二十五終日直

廿四年十二月十六日納本



